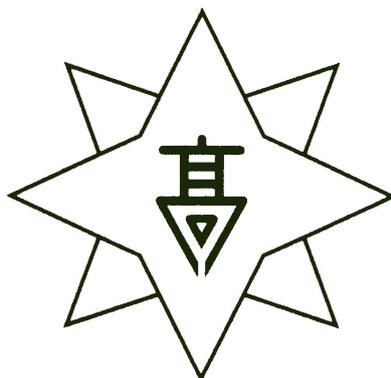


令和 6 年度

第 3 学年 シラバス



滋賀県立米原高等学校

目次

教 科	科 目	ページ
国 語	論理国語 (普通科文型・英語コース)	1
	論理国語 (普通科理型・理数科)	3
	古典探究 (普通科)	5
	古典探究 (理数科)	8
地歴公民	地理探究	11
	日本史演習	15
	世界史演習	21
	政治・経済 (普通科文型)	24
	政治・経済 (普通科英語コース)	27
	数 学	数学Ⅲ
	数学C	35
	総合数学 (普通科文型・英語コース)	40
	総合数学 (普通科理型)	42
	数学演習	44
理 科	物理	46
	化学	49
	生物	51
	化学演習	54
	生物演習	56
	地学演習	58
	保健体育	体育
外 国 語	英語コミュニケーションⅢ	64
	論理・表現Ⅲ (普通科文型)	68
	論理・表現Ⅲ (普通科理型・英語コース・理数科)	70
	実践コミュニケーションⅢ	72
理 数	理数数学Ⅱ	74
	数学演習	81
	理数物理	83
	理数化学	86
	理数生物	88

科目名	論理国語	学年	類型・コース	単位数
		3年	普通科文型・ 英語コース	3
学習の 目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。			
使用教材	教科書:『精選 論理国語』(数研出版) 副教材:『新国語便覧』(第一学習社) 『字義で覚える常用漢字』(第一学習社) 『イラストとネットワーキングで覚える 現代文単語 げんたん 改訂版』(いっずな書店)			
評価	評価法	定期考査、小テスト、課題考査、ノート、提出物で評価します。		
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。
		b	思考・判断・表現	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。
		c	主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1~5の5段階)にまとめます。			

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1 学期	4	異文化と普遍/「文化が違う」とは何を意味するのか?	・「新しい普遍性」という表現に込められた筆者の意図を読み取り、自分の生活と関連づけて考察する。	中間考査	中間考査	課題
	5	情報と知性/生命の知性	・筆者の主張を踏まえて、「生命らしい知性」とは何か考察する。 ・状況に依存した思考とは具体的にどのようなことが説明する。	中間考査	中間考査	課題
		情報と知性/【探究の扉】人と共にある図書館の未来は明るい・図書館と「ものがたり」	・「図書館」について書かれた二つの文章の内容について、共通点と相違点を読み取る。 ・文章内容を踏まえて「図書館のあり方」について考察し、自分の考えをまとめる。	中間考査	中間考査	課題
中間考査						

	6	環境と人間/環境と心の問題	<ul style="list-style-type: none"> ・機械論的自然観、原子論的な還元主義、物心二元論といった哲学的概念の内容を読み取る。 ・「物心二元論」について起源や考え方を詳しく調べ、現代社会における功罪について話し合う。 	期末考査	期末考査	課題 グループワーク
	7	思索の深化/顔の所有	<ul style="list-style-type: none"> ・論の展開をふまえ、逆説的な表現の内容を説明したり、筆者の主張の根拠をまとめたりする。 ・引用という表現技法の働きを引用以外の文章との関連性からとらえる。 	期末考査	期末考査	課題
	期末考査					
2 学期	9	<p>考えの表出/人はなぜ働かなくてはならないのか</p> <p>考えの表出/【探究の扉】我が国と諸外国の若者の意識に関する調査・希望を語る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・労働を「アイデンティティを承認されるための必須条件」とする筆者の主張を具体的に理解する。 ・「労働」についての自分の考えを根拠とともに論述する。 ・統計資料から、日本の若者が持つ「自分自身のイメージ」について読み取る。 ・「希望」が形成される過程を文章から読み取り、将来への希望を持つために必要なことについて自分の考えを論述する。 	中間考査	中間考査	課題
	10	共通テスト演習				
	中間考査					
	11	共通テスト演習				
	12	共通テスト演習				
	期末考査					
3 学期	1	共通テスト演習				
	2					
	3					

担当者からのメッセージ(学習方法など)

定められた時間内で読み解くには、読むスピードを上げることが求められます。そのためには、日頃から文章に触れ、読み慣れておくしか方法はありません。週末課題や模試以外にも長文に触れる機会を増やしておきましょう。

科目名	論理国語	学年	類型・コース	単位数
		3年	普通科理型 理数科	2
学習の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。			
使用教材	教科書:『精選 論理国語』(数研出版) 副教材:『新国語便覧』(第一学習社) 『字義で覚える常用漢字』(第一学習社) 『イラストとネットワーキングで覚える 現代文単語 げんたん 改訂版』(いっずな書店)			
評価	評価法	定期考査、小テスト、課題考査、ノート、提出物で評価します。		
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。
		b	思考・判断・表現	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。
		c	主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1~5の5段階)にまとめます。			

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1学期	4	異文化と普遍/「文化が違う」とは何を意味するのか?	・「新しい普遍性」という表現に込められた筆者の意図を読み取り、自分の生活と関連づけて考察する。	中間考査	中間考査	課題
	5	情報と知性/生命の知性	・筆者の主張を踏まえて、「生命らしい知性」とは何か考察する。 ・状況に依存した思考とは具体的にどのようなことが説明する。	中間考査	中間考査	課題
	中間考査					
	6	環境と人間/環境と心の問題	・機械論的自然観、原子論的な還元主義、物心二元論といった哲学的概念の内容を読み取る。 ・「物心二元論」について起源や考え方を詳しく調べ、現代社会における功罪について話し合う。	期末考査	期末考査	課題 グループワーク

	7	思索の深化/顔の所有	<ul style="list-style-type: none"> ・論の展開をふまえ、逆説的な表現の内容を説明したり、筆者の主張の根拠をまとめたりする。 ・引用という表現技法の働きを引用以外の文章との関連性からとらえる。 	期末考査	期末考査	課題
	期末考査					
2 学期	9	考えの表出/人はなぜ働かなくてはならないのか	<ul style="list-style-type: none"> ・労働を「アイデンティティを承認されるための必須条件」とする筆者の主張を具体的に理解する。 ・「労働」についての自分の考えを根拠とともに論述する。 	中間考査	中間考査	課題
	10	共通テスト演習				
	中間考査					
	11	共通テスト演習				
	12	共通テスト演習				
	期末考査					
3 学期	1	共通テスト演習				
	2					
	学年末考査					
	3					

担当者からのメッセージ(学習方法など)

定められた時間内で読み解くには、読むスピードを上げることが求められます。そのためには、日頃から文章に触れ、読み慣れておくしか方法はありません。週末課題や模試以外にも長文に触れる機会を増やしておきましょう。

科目名	古典探究		学年	類型・コース	単位数
			3年	普通科	3
学習の目標	<p>*生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>*論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>*言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>				
使用教材	<p>教科書:『古典探究 古文編』『古典探究 漢文編』(数研出版)</p> <p>副教材:『古典常識も学べる 新明説総合古典文法』(尚文出版)</p> <p>『句法と語彙を一緒に学ぶ 新明説漢文』(尚文出版)</p> <p>『イラストとシーンでおぼえる LOOK@古文単語 337』(京都書房)</p> <p>『句法をマスターする 漢文クリアノート』(尚文出版)</p> <p>『新版六訂 カラー版 新国語便覧』(第一学習社)</p>				
評価	評価法	定期考査、小テスト、課題考査、ノート、提出物で評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	
		b	思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1~5の5段階)にまとめます。					

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1 学期	4	随筆(→)/大納言殿参り給ひて(枕草子)	<ul style="list-style-type: none"> ・「うたて、何しにさ申しつらむ」とは、誰のどのような気持ちを表しているか、説明する。 ・作者以外の女房たちが、その時々状況に応じてどのような行動をとったか、順にまとめる。 ・「ただ人のねぶたかりつる目もいと大きになりぬ」とあるが、どういうことか、説明する。 	中間考査	中間考査	課題
		随筆/二月つごもりごろに(枕草子)	<ul style="list-style-type: none"> ・「宰相の御いらへを……心一つに苦しきを」について、ここで作者が配慮していることは何か。説明する。 ・「なほ内侍に奏してなさむ」とは、誰をどのように評しているのか。説明する。 	中間考査	中間考査	課題
	5	文章/漁父辞	<ul style="list-style-type: none"> ・屈原と漁父の問答について、それぞれの考え方をまとめ、その違いについて考える。 ・漁父の歌った歌謡の意味を考える。 ・作品全体の構成を考える。 ・本文から対になっている表現を抜き出す。 	中間考査	中間考査	課題
	中間考査			中間考査	中間考査	課題
	6	日記文学/うつろひたる菊(蜻蛉日記)	<ul style="list-style-type: none"> ・作者と兼家との間にどのようなことが起こったのか、時間を追って整理する。 ・「嘆きつつ……」の歌を「例よりはひきつくるひて書いて、うつろひたる菊にさし」て贈った作者の気持ちについて話し合う。 	期末考査	期末考査	課題 グループワーク
		日記文学/薫る香に(和泉式部日記)	<ul style="list-style-type: none"> ・作者が「薫る香に……」の歌を帥宮に贈ったのはどういう気持ちからか、考える。 ・「同じ枝に……」の歌の「同じ枝」「ほととぎす」「声は変はらぬ」という表現がどういう意味を持って使われているか、考える。 ・「うち出ででも……」「今日のまの……」の贈答歌について、それぞれの歌に込められた気持ちを説明する。 	期末考査	期末考査	課題
	7	史伝/廉頗・藺相如	<ul style="list-style-type: none"> ・藺相如が秦に着いたとき、秦王はどのような応対をしたか説明する。 ・それに対し藺相如はどのような行動で対抗しようとしたか説明する。 ・この逸話に由来する「完璧」という成語は、現在どのような意味で使われているか調べる。 	期末考査	期末考査	課題

			<ul style="list-style-type: none"> ・廉頗は最初、藺相如をどのように思い、どのような態度をとったかまとめる。 ・藺相如は廉頗に対してどのような態度をとったか、理由とともにまとめる。 ・「刎頸の交わり」という成語は、現在どのような意味で使われているか調べる。 				
期末考査							
2 学期	9	和歌・歌謡・俳諧 /和歌・歌謡	<ul style="list-style-type: none"> ・作者は和歌をどのようなものにとらえているか、その本質と効用に分けて整理する。 ・作者は六歌仙の歌をそれぞれどのようにたとえて評価しているか、整理し、考える。 	中間考査	中間考査	課題	
		評論/文(無名草子)	<ul style="list-style-type: none"> ・文の「めでたき」ところはどのようなところか、まとめる。 ・『枕草子』に返す返す申して侍る」について、具体的にどのようなことが書いてあるのか、調べる。 ・「文字」を持つことの意味について、具体的な体験談を交えながら、自分の考えをまとめる。 	中間考査	中間考査	課題	
	10	評論/本歌取り (近代秀歌)	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者は、すばらしい歌を作るためにはどうしたらよいと言っているか、説明する。 ・筆者は、「本歌」の扱い方についてどのように考えているか、説明する。 	中間考査	中間考査	課題	
	中間考査						
	11	共通テスト演習					
12	共通テスト演習						
期末考査							
3 学期	1	共通テスト演習					
	2						
	期末考査						
	3						

担当者からのメッセージ(学習方法など)

三年生ではより実践的な、読解力、表現力、判断力が求められます。語彙力がないと読めませんし、表現もできません。日頃からすぐに辞書で調べるようにしましょう。単語帳をみているだけでは身につけません。文脈の中でその語がどのような意味で用いられているのかが理解できるように日頃から言葉を意識して学習に取り組んでください。

科目名	古典探究		学年	類型・コース	単位数
			3年	理数科	2
学習の目標	<p>*生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>*論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>*言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>				
使用教材	<p>教科書:『古典探究 古文編』『古典探究 漢文編』(数研出版)</p> <p>副教材:『古典常識も学べる 新明説総合古典文法』(尚文出版)</p> <p>『句法と語彙を一緒に学ぶ 新明説漢文』(尚文出版)</p> <p>『イラストとシーンでおぼえる LOOK@古文単語 337』(京都書房)</p> <p>『句法をマスターする 漢文クリアノート』(尚文出版)</p> <p>『新版六訂 カラー版 新国語便覧』(第一学習社)</p>				
評価	評価法	定期考査、小テスト、課題考査、ノート、提出物で評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	
		b	思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1~5の5段階)にまとめます。					

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1 学期	4	随筆/二月つごもりごろに(枕草子)	<ul style="list-style-type: none"> ・「宰相の御いらへを……心一つに苦しきを」について、ここで作者が配慮していることは何か。説明する。 ・「なほ内侍に奏してなさむ」とは、誰をどのように評しているのか。説明する。 	中間考査	中間考査	課題
	5	文章/漁父辞	<ul style="list-style-type: none"> ・屈原と漁父の問答について、それぞれの考え方をまとめ、その違いについて考える。 ・漁父の歌った歌謡の意味を考える。 ・作品全体の構成を考える。 ・本文から対になっている表現を抜き出す。 	中間考査	中間考査	課題
	中間考査					
	6	日記文学/うつろひたる菊(蜻蛉日記)	<ul style="list-style-type: none"> ・作者と兼家との間にどのようなことが起こったのか、時間を追って整理する。 ・「嘆きつつ……」の歌を「例よりはひきつろひて書いて、うつろひたる菊にさし」て贈った作者の気持ちについて話し合う。 	中間考査	中間考査	課題 グループワーク
	7	史伝/廉頗・藺相如	<ul style="list-style-type: none"> ・藺相如が秦に着いたとき、秦王はどのような応対をしたか説明する。 ・それに対し藺相如はどのような行動で対抗しようとしたか説明する。 ・この逸話に由来する「完璧」という成語は、現在どのような意味で使われているか調べる。 ・廉頗は最初、藺相如をどのように思い、どのような態度をとったかまとめる。 ・藺相如は廉頗に対してどのような態度をとったか、理由とともにまとめる。 ・「刎頸の交わり」という成語は、現在どのような意味で使われているか調べる。 	中間考査	中間考査	課題
期末考査						
2 学期	9	和歌・歌謡・俳諧/和歌・歌謡	<ul style="list-style-type: none"> ・作者は和歌をどのようなものにとらえているか、その本質と効用に分けて整理する。 ・作者は六歌仙の歌をそれぞれどのようにたとえて評価しているか、整理し、考える。 	中間考査	中間考査	課題
		評論/文(無名草子)	<ul style="list-style-type: none"> ・文の「めでたき」ところはどのようなところか、まとめる。 	中間考査	中間考査	課題

			・『枕草子』に返す返す申して侍る』について、具体的にどのようなことが書いてあるのか、調べる。 ・「文字」を持つことの意味について、具体的な体験談を交えながら、自分の考えをまとめる。	中間 考 査	中間 考 査	課 題
10	評論/本歌取り (近代秀歌)	・筆者は、すばらしい歌を作るためにはどうしたらよいと言っているか、説明する。 ・筆者は、「本歌」の扱い方についてどのように考えているか、説明する。				
中間 考 査						
11	共通テスト演習					
12	共通テスト演習					
期 末 考 査						
3 学 期	1	共通テスト演習				
	2					
	3					

担当者からのメッセージ(学習方法など)

三年生ではより実践的な、読解力、表現力、判断力が求められます。語彙力がないと読めませんし、表現もできません。日頃からすぐに辞書で調べるようにしましょう。単語帳をみているだけでは身につけません。文脈の中でその語がどのような意味で用いられているのかが理解できるように日頃から言葉を意識して学習に取り組んでください。

科目名	地理探究		学年	類型・コース	単位数
			3年	普通科理型・ 理数科	3
学習の 目標	1. 「自然環境」、「資源と産業」などの系統地理分野の知識を身に付け、現代世界の人々の生活について考察できるようにする。 2. 地誌的なアプローチから現代世界の諸課題について理解し、その背景や解決策について考察できるようにする。 3. 地理的な見方・考え方を養うとともに、地理情報と地図の活用に関する技能を身につける。				
使用教材	教科書：『地理探究』（二宮書店） 副教材：『新詳地理資料 COMPLETE2023』（帝国書院） 『詳解現代地図 最新版』（二宮書店） 『ウィニングコンパス地理の整理と演習 2023』（とうほう）				
評価	評価法	定期考査、小テスト、ノート(授業プリント・ワークシート等)、ワークブック、振り返りシート			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	知識：地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解する。 技能：地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	
		b	思考・判断・表現	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。					

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法			
				a	b	c	
1学期	4	第I編 第1章 ① 地形 ② 気候と生態系 ③ 世界各地の自然と生活 ④ 日本の自然環境と防災 ⑤ 地球環境問題	1.自然環境にかかわる諸事情の規則性、傾向性などを理解することができる。 2.自然環境にかかわる基礎知識をもちいて、人間生活について、多面的・多角的に考察し、表現することができる。 3.自然環境にかかわる基礎知識をもちいて、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	定期考 査 小テス ト	定期考 査 振り返 りシート	ノート 振り返 りシート ワーク ブック	
	5	第2章 ① 農林水産業 ② 資源・エネルギー ③ 工業 ④ 第3次産業	1.資源と産業にかかわる諸事情の規則性、傾向性、現状や問題について理解することができる。 2.資源と産業にかかわる基礎知識をもちいて、問題解決について、多面的・多角的に考察し、表現することができる。 3.資源と産業にかかわる基礎知識をもちいて、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。				
	中間考査						
	6	第3章 ① 交通・通信 ② 貿易・観光	1.人・モノ・金のつながりにかかわる諸事情の規則性、傾向性、現状や問題について理解することができる。 2.人・モノ・金のつながりにかかわる基礎知識をもちいて、問題解決について、多面的・多角的に考察し、表現することができる。 3.人・モノ・金のつながりにかかわる基礎知識をもちいて、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。				
7	第4章 ① 人口 ② 村落	1.人口、村落・都市にかかわる諸事情の規則性、傾向性、現状や問題について理解することができる。 2.人口、村落・都市にかかわる基礎知識をもちいて、問題解決について、多面的・多角的に考察し、表現することができる。					

			3.人口、村落・都市にかかわる基礎知識をもちいて、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。			
	期末考査					
2 学期	9	<p>第5章</p> <p>① 生活文化と言語・宗教</p> <p>② 国家とその領域</p> <p>第Ⅱ変</p> <p>第1章</p> <p>① 現代世界の地域区分</p>	<p>1.文化と国家にかかわる諸事情の規則性、傾向性、現状や問題について理解することができる。</p> <p>2.文化と国家にかかわる基礎知識をもちいて、問題解決について、多面的・多角的に考察し、表現することができる。</p> <p>3.文化と国家にかかわる基礎知識をもちいて、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p> <p>1.地域の概念や地域区分の意義、有用性を理解し、地域区分の方法を身につけている。</p> <p>2.州や自然、文化、国家群などで地域を区分する方法を多面的・多角的に考察し表現することができる。</p> <p>3.現代世界をいくつかの地域に区分する方法や、地域の概念、地域区分の意義、その有用性を基に、地域区分に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、かつ活用しようとしている。</p>	定期考査 小テスト	定期考査 振り返りシート	ノート 振り返りシート ワークブック
	10	<p>第2章</p> <p>① 中国</p> <p>② 朝鮮半島</p> <p>③ 東南アジア</p> <p>④ 南アジア</p> <p>⑤ 西アジア・中央アジア</p>	<p>1.アジア諸国の歴史的背景や経済、鉱工業、人口、民族、自然、農牧業について、経済成長と関連づけながらその特色や課題を理解し、知識として身につけることができる。</p> <p>2.アジア諸国の歴史的背景や経済、鉱工業、人口、民族、自然、農牧業について、経済成長と関連づけながら考察し表現することができる。</p> <p>3.地図や統計を活用し、さまざまな課題や今後の日本との関係について多面的・多角的に思考したことを適切に表現することができる。</p> <p>4.アジア諸国の課題意識を高め、背景と現状、対策などについて意欲的に追究している。</p>			
	中間考査					

	11	⑥ 北アフリカ・サブサハラアフリカ ⑦ ヨーロッパ ⑧ ロシア ⑨ アングロアメリカ ⑩ ラテンアメリカ ⑪ オーストラリア ⑫ ニュージーランドと島嶼国	1. 各国土・各国の歴史的背景や経済，鉱工業，人口，民族，自然，農牧業について，経済成長と関連づけながらその特色や課題を理解し，知識として身につけることができる。 2. 各国土・各国の歴史的背景や経済，鉱工業，人口，民族，自然，農牧業について，経済成長と関連づけながら考察し表現することができる。 3. 地図や統計を活用し，さまざまな課題や今後の日本との関係について多面的・多角的に思考したことを適切に表現することができる。 4. 各国土・各国の課題意識を高め，背景と現状，対策などについて意欲的に追究している。			
	12	第三編 ① 現代日本に求められる国土像	1. 自然災害や産業の変化，人口減少，多文化共生社会への対応など，現代世界における日本の国土の特色や諸課題について，個人や国，国際社会などからの多角的で客観的な視点を身につけることができる。 2. 自然災害や産業の変化，人口減少，多文化共生社会への対応など，日本の国土や社会・経済の特色について，これまでの地図・系統的・地誌的学習をふまえ様々な視点から客観的に考察し，その過程や結果について適切に表現することができる。 3. 自然災害や産業の変化，人口減少，多文化共生社会への対応など，日本の国土や社会・経済の特色や諸課題について関心を高め，その解決の方向性や将来の国土のあり方について意欲的に追究しようとしている。			
期末考査						
3 学 期	1		地理問題演習	小テスト	振り返りシート	ワークブック
	2					
	3					

担当者からのメッセージ(学習方法など)

「地理探究」では、「地理総合」で培った基礎知識をもちいて、社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指します。普段からニュースなどを通して世界に関心を持っておきましょう。

科目名	日本史演習		学年	類型・コース	単位数
			3年	普通科文型 普通科英語コース	4
学習の目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。				
使用教材	主たる教材:『図説日本史通覧』(帝国書院) 副教材:『詳説日本史』(山川出版社) 『ウィニングコンパス日本史の整理と演習』(東京法令出版)				
評価	評価法	中間考査 期末考査 ノート・ファイル等の提出物 小テスト			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	
		b	思考・判断・表現	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1~5の5段階)にまとめます。					

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1 学期	4	原始・古代・中世の復習		定期考 査	定期考 査	ノート・ ファイル 等の提 出物
	4	近世の幕開け	<p>①大航海時代と呼ばれる世界史的背景を踏まえて、ヨーロッパ人の東アジアへの進出とその影響を考察する。</p> <p>②織田信長の統一事業、豊臣秀吉の天下統一、秀吉の朝鮮侵略と続く織豊政権の特色と意義、その後の時代への影響について理解する。</p> <p>③新興の大名や都市の豪商の精神を反映した桃山文化について、町衆の生活にも着目し、時代的背景を踏まえて考察する。</p> <p>④中世から近世への変化について考察し、時代を通観する問いを表現する。</p>			
	5	幕藩体制の成立と展開	<p>①江戸幕府の成立による幕藩体制の確立過程を理解する。</p> <p>②江戸幕府の鎖国政策について、単なる対外貿易の遮断ではないことを理解し、鎖国後の貿易関係の在り方も含めてその影響と歴史的意義について考察する。</p> <p>③幕藩体制の確立期の経済・社会を、兵農分離や村落・都市支配などの観点から、多面的・多角的に考察する。</p> <p>④被支配身分の特質や、周縁部分に生きる人々の社会的役割について理解する。</p> <p>⑤17世紀後半から18世紀前半までの江戸幕府の安定期について、その平和と秩序の確立の視点で考察する。</p> <p>⑥諸藩における政治の安定化や刷新について、その特色を理解する。</p> <p>⑦幕藩体制の安定期の農業・商工業などの発展について、諸産業相互の関係やその社会的役割を踏まえて考察する。</p> <p>⑧全国市場の確立や都市の発達で商品流通が拡大し、各地で風土に応じた特産物が生まれたことを理解する。</p> <p>⑨経済の発展と関連して町人文化が形成されたことについて、町人の社会的台頭や幕藩体制の安定と関連させて理解する。</p> <p>⑩儒学の特色を理解し、その発達が他の学問に与えた影響を考察する。</p>			
中間考査						
	6	幕藩体制の動揺	①農村や都市の変容により幕藩体制が動揺する中、幕府や諸藩が行った諸改革の意義とその影響を考察する。			

	7	近世から近代へ	<p>②幕府や藩の支配に対しておこなわれた百姓一揆や、都市の打ちこわしの実態について理解する。</p> <p>③江戸中期に確立した洋学や国学、新たなかたちで展開する文学・芸能・美術について、社会の変容にともなう幕藩体制の動揺と関連づけて考察する。</p> <p>④幕府や藩による武士の教育に加え、民間でも私塾や寺子屋が開かれた背景について理解する。</p> <p>⑤欧米諸国のアジア進出による国際情勢の変化やそれに対する幕政の対処を踏まえて幕府が衰退していく過程を理解する。</p> <p>⑥近代化の基盤の形成について、産業経済面や軍事面などに着目して、雄藩の浮上という地方からの視点から考察する。</p> <p>⑦化政文化について、学問・思想・教育・文学・美術・生活文化の新たな展開に着目し、江戸と地方の文化的交流にも留意して考察する。</p> <p>⑧都市の民衆を中心とする芸能などが盛んになったことを理解する。</p> <p>①国際社会に組み込まれるという国際環境の変化に着目して、日本の開国を社会・経済面での変化と関わらせて考察する。</p> <p>②江戸幕府の威信低下と雄藩の台頭について、政治情勢の変化と列強の動向を関連させて理解する。</p> <p>③幕末の動乱における天皇を中心とする統一国家構想の芽生えから幕府の滅亡、旧幕勢力の一掃に至るまでの経過を理解する。</p> <p>④近世から近代への変化について考察し、時代を通観する問いを表現する。</p>			
	期末考査					
2 学期	9	近代国家の成立	<p>*歴史資料と近代の展望</p> <p>①明治新政府の制度改革や富国強兵・殖産興業政策に着目して、政治的変革と国家的統一過程を理解する。</p> <p>②欧米文化・思想の導入と近代化政策に対する土族反乱・農民一揆の発生と、言論闘争への転換を理解する。</p> <p>③明治初期の対外政策について、欧米への対応とアジアに対する外交政策の違いについて考察する。</p> <p>④政府の強力な中央集権体制への志向のもとで、自由民権運動の始まりから立憲国家の成立に至る間、近代国家の基盤が形成されていく過程を考察する。</p>	定期考査	定期考査	ノート・ファイル等の提出物

		<p>⑤大日本帝国憲法の性格について具体的・多角的に理解する。</p> <p>①東アジアをめぐる国際環境が変容する中、国家的課題であった不平等条約の改正交渉が進展した過程や、朝鮮問題から日清戦争に至る経緯について理解する。</p> <p>②開戦に至る国際関係や、日露戦争の経過、戦後の日本の国際的地位の変化と植民地支配の推進について、諸外国の動向と関連づけて考察する。</p> <p>③第一次世界大戦前後の政治の動向および対外政策の推移について、政党政治の発展や日本の中国進出の状況を踏まえて理解する。</p> <p>④第一次世界大戦が日本の社会経済や政治に及ぼした影響について、欧米・アジア経済との関係や政党内閣の成立などと関連させて考察する。</p> <p>⑤ワシントン体制に至る国際的協調体制の進展など国際環境の推移を、日本の立場に着目して理解する。</p> <p>⑥民主主義的風潮による社会運動の動向を理解するとともに、普選運動など政党政治の発展から二大政党による政党内閣制成立に至るまでの意義について考察する。</p>			
10	近代の産業と生活	<p>①日清・日露戦争前後にかけて資本主義国家の基礎が確立された過程を、産業革命や近代産業の発展に着目して理解する。</p> <p>②近代産業の発展にともなう社会問題(労働問題・公害問題)の発生と政府の対応について考察する。</p> <p>③伝統的な文化のうえに欧米文化を摂取するなど二元性をもって成立した近代文化の特色について、政治・経済・外交などの視点をもって考察する。</p> <p>④義務教育の普及・定着とともに、国家主義的教育が浸透していくことを理解する。</p> <p>⑤労働者や都市中間層の拡大による大衆社会の基盤の成立に着目し、都市化や市民生活の変化を踏まえて、大衆文化の特色について考察する。</p> <p>⑥大衆文化の前提となる教育の普及・発展、マスメディアの発達について理解する。</p>			
中間考査					
11	恐慌と第二次世界大戦	<p>①戦後恐慌から昭和恐慌に至る国内経済の動揺について、国内・国外の経済状況と対策に着目して理解する。</p>			

		<p>②社会主義運動の高揚と国家主義の台頭による軍部の政治的進出を踏まえて、協調外交が挫折していく過程を考察する。</p> <p>③日本の対外政策の推移について、世界情勢や軍部の政治的進出に着目して、政党内閣の崩壊や国際的孤立の過程について理解する。</p> <p>④恐慌から脱出し、国家主義が高揚する中で、五・一五事件から二・二六事件にかけて、軍部の影響力が増大していく過程を考察する。</p> <p>⑤日中戦争の勃発から太平洋戦争の突入に至る過程について、国民生活の変化や諸統制に着目して全体主義的な国家体制の進展を考察する。</p> <p>⑥第二次世界大戦について、国家間の相違や総力戦の特色を踏まえ、この戦争が空前的惨禍をもたらした点に着目して、平和で民主的な国際社会の実現に努める重要性を認識する。</p>		
12	<p>占領下の日本</p> <p>高度成長の時代</p> <p>激動する世界と日本</p>	<p>①戦後の世界秩序を踏まえ、占領政策および戦後の民主化政策とそれともなう諸改革について、その経過と内容を理解する。</p> <p>②戦後政治の動きを踏まえて、集大成となる日本国憲法制定の意義を考察する。</p> <p>③東アジア情勢の変化を踏まえ、連合国による占領が終結して日本が独立した意義を考える。</p> <p>④連合国による日本占領の終結と、その後の日米関係の継続について、様々な国の立場から考察する。</p> <p>①独立後の日本国内政治について、衆議院を保守・革新の二大勢力が占める55年体制の成立から安定した保守政権となるまでの経過を理解する。</p> <p>②冷戦構造の中で日本が国際社会に復帰したことについて、日本の国際連合への加盟、アメリカ・中華人民共和国・大韓民国との関係に着目して、独立回復後の日本の動きを考察する。</p> <p>③朝鮮特需による経済復興とその後の高度経済成長について、経済の国際化と国内の技術革新などの側面に着目して考察する。</p> <p>④消費革命による社会の変貌と、経済成長がもたらしたひずみである社会問題について理解する。</p> <p>①ドル＝ショックや石油危機を踏まえて、主要先進国首脳会議が開かれた意義を理解する。</p> <p>②高度成長が終焉し、保守政権が動揺する中、2度にわたる石油危機を乗り越え、経済大国としての道を歩み始めた日本の状況を多面的・多角的に考察する。</p>		

			<p>③冷戦体制の終結とそれに関わる国内の状況について、日本の政治・外交・経済・生活文化面を踏まえて多面的・多角的にとらえる。</p> <p>④科学技術・産業の発達によって派生する環境問題やエネルギー問題などの日本の課題とそれに対する日本の役割を認識する。</p>			
	期末考査					
3 学 期	1					
	2					
	学年末考査					
	3					

担当者からのメッセージ(学習方法など)

歴史探究の授業は、ただ知識をインプットするだけではなく、歴史について、調べ、まとめ、考察し、さらによりよい社会の実現を視野に課題を探究することなどの主体的な活動を通じて、自分で根拠を確認した情報に基づいて自ら考える力を養うことが求められています。一方的に聞くだけではなく、主体的に考えながら授業を受けることができるようにしてください。

科目名	世界史演習	学年	類型・コース	単位数
		3年	普通科文型 普通科英語コース	4
学習の目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、諸地域の歴史的性質の形成や諸地域の交流・再編、諸地域の結合・変容という大きな枠組みをもとに、世界の歴史を大きく捉える。			
使用教材	主たる教材:『グローバルワイド 最新世界史図表』(第一学習社) 副教材:『新詳 世界史探究』(帝国書院) 『新詳 世界史探究演習ノート』(帝国書院) 『世界史重要語句CheckList』(啓隆社) 『ウィニングコンパス世界史の整理と演習 2024』(とうほう)			
評価	評価法	定期考査、小テスト、ノート(授業プリント・ワークシート等)、ワークブック、振り返りシート		
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	①世界の歴史の大きな枠組みと展開に関する諸事情について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解している。 ②諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能が身についている。
		b	思考・判断・表現	①世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察できている。 ②歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力が身についている。
		c	主体的に学習に取り組む態度	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度が身についている。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1~5の5段階)にまとめます。				

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1学期	4	3章 主権国家体制の成立と交易の拡大	①17~18世紀のヨーロッパの社会構造の変化を理解している。 ②17~18世紀のヨーロッパの社会構造の変化に大きな影響を与えたものは何かについて考察し、自分の言葉で表現している。 ③17~18世紀のヨーロッパの社会構造の変化を主体的に追究しようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 振り返りシート	ノート 振り返りシート ワークブック

	5	4部 1章 環大西洋革命～工業文明と国民国家の誕生	<p>①大西洋を取り巻く地域で起こった革命が、各地の社会構造に与えた影響を理解している。</p> <p>②大西洋を取り巻く地域で起こった革命が、各地の社会構造に与えた影響について考察し、自分の言葉で表現している。</p> <p>③大西洋を取り巻く地域で起こった革命が、各地の社会構造に与えた影響を主体的に追究しようとしている。</p>			
	中間考査					
	6	2章 イギリスの覇権と欧米の国民国家建設	<p>①イギリスの覇権が欧米諸国に与えた影響を理解している。</p> <p>②国民国家形成の前後で、欧米諸国に生じた変化について考察し、自分の言葉で表現している。</p> <p>③イギリスの覇権が欧米諸国に与えた影響を主体的に追究しようとしている。</p>			
	7	3章 世界の一体化の進展とアジアの変容	<p>①「西洋の衝撃」がアジア諸地域に与えた影響を理解している。</p> <p>②「西洋の衝撃」によるアジアの変化で、最も重大だということについて、根拠を示しながら自分なりに評価し、表現している。</p> <p>③「西洋の衝撃」がアジア諸地域に与えた影響を主体的に追究しようとしている。</p>			
期末考査						
2学期	9	4章 世界の一体化の完成とその影響 5章 世界大戦の時代	<p>①帝国主義が世界各地に与えた変化について、理解している。</p> <p>②帝国主義が世界各地に与えた変化について、欧米およびアジア・アフリカ・オセアニアの各地域ごとに考察し、表現している。</p> <p>③帝国主義が各地に与えた変化について、主体的に追究しようとしている。</p> <p>①二度の世界大戦が起こった理由を理解している。</p> <p>②第一次世界大戦の反省を踏まえた平和への取り組みは成功せず、第二次世界大戦が起こった理由について考察し、表現している。</p> <p>③二度の世界大戦が起こった理由を主体的に追究しようとしている。</p>	定期考査 小テスト	定期考査 振り返りシート	ノート 振り返りシート ワークブック
	10	6章 戦後の国際秩序と冷戦	<p>①第二次世界大戦と冷戦構造の関係について理解している。</p> <p>②冷戦構造が形成されるなかで、アメリカ・ソ連・ヨーロッパ・第三勢力諸国の動きが冷戦構造に与えた影響について考察し、自分の言葉で表現している。</p>			

	5部 1章 冷戦の展開と平和の模索	<p>③冷戦構造が世界にもたらした影響を主体的に追究しようとしている。</p> <p>①冷戦期から現在まで世界各地で発生した紛争を理解している。</p> <p>③冷戦期から現在までの紛争の原因と解決方法について、共通点や相違点に着目しながら考察し、課題解決の方法を主体的に追究しようとしている。</p>				
中間考査						
11	<p>2章 グローバル化する国際経済とその課題</p> <p>3章 情報と科学技術によって結びつく世界</p> <p>4章 地球世界の課題の探究</p>	<p>①冷戦終結後に、グローバル化が進んだ状況を理解している。</p> <p>②冷戦終結以降のグローバル化がもたらした功績と課題、その課題が生じた理由について考察し、表現している。</p> <p>①科学技術の高度化と知識基盤社会の進展について理解している。</p> <p>③科学技術の高度化と知識基盤社会の進展は、私たちの生活にどのような影響や課題を与えているのか、歴史的経緯を踏まえて考察し、今後の科学と世界のあり方について主体的に追究しようとしている。</p> <p>②これまでの学習を踏まえて、主題を設定し、動機についても示しながら、よりよい社会実現のための仮説を表現している。</p> <p>③地球世界の課題について、歴史的な経緯を踏まえながら考察し、解決に向けて主体的に追究しようとしている。</p>				
12		世界史問題演習				
期末考査						
3学期	1		世界史問題演習	小テスト	振り返りシート	ワークブック
	2					
	3					

担当者からのメッセージ(学習方法など)

「世界史演習」では、「世界史探究」で培った歴史的な見方や考え方を使って、世界の歴史について実際に自分自身で課題を見つけ考えていく力を養います。引き続き、「なぜ?」という疑問を大切に授業に臨んでください。また、小テストなどで重要事項を覚えた上で、歴史の流れやそれぞれの時代の課題について説明する力を身につけ、現代社会の課題についても考えていきましょう。

科目名	政治・経済		学年	類型・コース	単位数
			3年	普通科文型	3
学習の目標	現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手がかりとなる概念や理論 などについて理解する。国家および社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や、政治・経済に関する概念 や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握する。				
使用教材	教科書:『政治・経済』(東京書籍) 副教材:『最新図説 政経』(浜島書店) 『ニューコンパスノート 政治・経済 2024』(東京法令出版)				
評価	評価法	中間考査 期末考査 ノート・ファイル等の提出物 小テスト			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手がかりとなる概念や理論などについて理解する。	
		b	思考・判断・表現	現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手がかりとなる概念や理論などについて理解する。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現のために、国民主権を担う公民として、現代の諸課題を主体的に取り組む。知識および技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身につけたりすることに向けた取り組みを行おうとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1~5の5段階)にまとめます。					

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1学期	4	第1編 現代日本の政治と経済 第1章 現代日本の政治 1節 民主政治の基本原理	○民主政治の基本原則について、その成り立ちを歴史的な観点から学習します。 ○民主政治の主たる形態である議院内閣制と大統領制について、その特徴を学ぶとともに、イスラム諸国の政治体制、および社会主義国の変遷や権力集中制をとる国々の現状について学習します。	定期考査 コンパスノート の提出	定期考査 振り返りシート	ノート 振り返りシート ワークブック
	5	2節 日本国憲法の基本原理 3節 日本の政治機構	○日本国憲法の成立過程と三大基本原則である国民主権、基本的人権の尊重、平和主義について歴史的な経緯を踏まえながら理解します。 ○基本的人権・平和主義について学習します。 ○国会が「国権の最高機関」とされることの意味、内閣の機能や内閣総理大臣の権限、司法のあり方について学習します。 ○地方自治の意義について学習します。			
中間考査						

	6	4節 現代政治の特質と課題 第2章 現代日本の経済 1節 現代の資本主義経済	○民主政治における政党や日本における政党の歴史的経緯について理解します。 ○「18歳選挙権」を念頭におき、民主政治における選挙の意義について考察します。 ○資本主義経済の特徴について理解を深め、社会主義経済の理論と現状についても考察します。			
	7	2節 現代経済のしくみ	○企業形態の中心である株式会社の特徴と今日的あり方について考察します。 ○資本主義経済の核心をなしている市場の働きについて理解し、市場の失敗についても理解を深めます。 ○金融の基本的なしくみとともに銀行や中央銀行が果たす役割について理解します。 ○租税を理解します。			
	期末考査					
2 学期	9	3節 日本経済の発展と現状 4節 福祉社会と日本経済の課題	○第二次世界大戦後の日本経済復興期の諸改革や高度経済成長にいたる経緯と背景について理解し、オイル・ショック後の日本経済の変容と産業構造の変化、バブル経済とその崩壊について考察します。 ○日本の社会保障制度の4つの柱について理解を深めます。また、人口減少社会の問題点や課題とその解決策について考えます。	定期考査 コンパスノートの提出	定期考査 振り返りシート	ノート 振り返りシート ワークブック
	10	第3章 現代日本の諸課題 第2編 グローバル化する国際社会 第1章 現代の国際政治 1節 国際政治のしくみ	○日本の少子高齢化について考えます。 ○若者を取り巻く労働環境の現状や問題点を考察します ○国際社会の成立過程と主権国家と国際社会の関係について学習します。 ○国際法に基づく司法的解決の制度について考察します。 ○国際平和の実現のために形成された勢力均衡や集団安全保障のしくみについて理解します。			
	中間考査					
	11	2節 複雑化する国際政治と日本 第2章 現代の国際経済 1節 国民経済と国際経済	○日本外交の課題について考えます。また、日本の国際貢献のあり方を考察し、何が重要かを考えます。 ○貿易の意義、自由貿易の利点などについてリカードの比較生産費説をもとに理解します。 ○国際通貨体制や IMF-GATT 体制の変遷について理解します。			

	12	2節 世界経済の現状と課題 第3章 国際社会の諸課題	○世界のエネルギー供給の現状と課題を理解します。 ○国際的な経済格差と貧困の現状を理解します。			
期末考査						
3 学 期	1					
	2					
	学年末考査					
	3					

担当者からのメッセージ(学習方法など)

まず、授業を大切にしましょう。授業に積極的に参加して、取り上げられているテーマについて自分なりの考えと意見を持つことを習慣にしてください。資料集の巻頭に挙げられている時事問題によく目を通すことは勿論のこと、日頃から政治経済分野についての新聞記事やテレビのニュースに興味関心をもって接していくことも大切です。幅広く社会的知識を有しておく、現代文の評論や英語の長文読解にもきっと役立つことでしょう。18歳になったら成人となり、有権者でもあります。政治・経済の学習をすることで、自分なりの政治的意見を持って選挙で投票できる一主権者に成長することを目標としてください。

科目名	政治・経済		学年	類型・コース	単位数
			3年	普通科英語コース	2
学習の目標	現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手がかりとなる概念や理論 などについて理解する。国家および社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や、政治・経済に関する概念 や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握する。				
使用教材	教科書:『政治・経済』(東京書籍) 副教材:『最新図説 政経』(浜島書店) 『ニューコンパスノート 政治・経済 2024』(東京法令出版)				
評価	評価法	中間考査 期末考査 ノート・ファイル等の提出物 小テスト			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手がかりとなる概念や理論などについて理解する。	
		b	思考・判断・表現	現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手がかりとなる概念や理論などについて理解する。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現のために、国民主権を担う公民として、現代の諸課題を主体的に取り組む。知識および技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身につけたりすることに向けた取り組みを行おうとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1~5の5段階)にまとめます。					

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1学期	4	第1編 現代日本の政治と経済 第1章 現代日本の政治 1節 民主政治の基本原則	○民主政治の基本原則について、その成り立ちを歴史的な観点から学習します。 ○民主政治の主たる形態である議院内閣制と大統領制について、その特徴を学ぶとともに、イスラム諸国の政治体制、および社会主義国の変遷や権力集中制をとる国々の現状について学習します。	定期考査 コンパスノート の提出	定期考査 振り返りシート	ノート 振り返りシート ワークブック
	5	2節 日本国憲法の基本原則 3節 日本の政治機構	○日本国憲法の成立過程と三大基本原則である国民主権、基本的人権の尊重、平和主義について歴史的な経緯を踏まえながら理解します。 ○基本的人権・平和主義について学習します。 ○国会が「国権の最高機関」とされることの意味、内閣の機能や内閣総理大臣の権限、司法のあり方について学習します。 ○地方自治の意義について学習します。			
中間考査						

	6	4節 現代政治の特質と課題 第2章 現代日本の経済 1節 現代の資本主義経済	○民主政治における政党や日本における政党の歴史的経緯について理解します。 ○「18歳選挙権」を念頭におき、民主政治における選挙の意義について考察します。 ○資本主義経済の特徴について理解を深め、社会主義経済の理論と現状についても考察します。			
	7	2節 現代経済のしくみ	○企業形態の中心である株式会社の特徴と今日的あり方について考察します。 ○資本主義経済の核心をなしている市場の働きについて理解し、市場の失敗についても理解を深めます。 ○金融の基本的なしくみとともに銀行や中央銀行が果たす役割について理解します。 ○租税を理解します。			
	期末考査					
2 学期	9	3節 日本経済の発展と現状 4節 福祉社会と日本経済の課題	○第二次世界大戦後の日本経済復興期の諸改革や高度経済成長にいたる経緯と背景について理解し、オイル・ショック後の日本経済の変容と産業構造の変化、バブル経済とその崩壊について考察します。 ○日本の社会保障制度の4つの柱について理解を深めます。また、人口減少社会の問題点や課題とその解決策について考えます。	定期考査 コンパスノートの提出	定期考査 振り返りシート	ノート 振り返りシート ワークブック
	10	第3章 現代日本の諸課題 第2編 グローバル化する国際社会 第1章 現代の国際政治 1節 国際政治のしくみ	○日本の少子高齢化について考えます。 ○若者を取り巻く労働環境の現状や問題点を考察します ○国際社会の成立過程と主権国家と国際社会の関係について学習します。 ○国際法に基づく司法的解決の制度について考察します。 ○国際平和の実現のために形成された勢力均衡や集団安全保障のしくみについて理解します。			
	中間考査					
	11	2節 複雑化する国際政治と日本 第2章 現代の国際経済 1節 国民経済と国際経済	○日本外交の課題について考えます。また、日本の国際貢献のあり方を考察し、何が重要かを考えます。 ○貿易の意義、自由貿易の利点などについてリカードの比較生産費説をもとに理解します。 ○国際通貨体制や IMF-GATT 体制の変遷について理解します。			

	12	2節 世界経済の現状と課題 第3章 国際社会の諸課題	○世界のエネルギー供給の現状と課題を理解します。 ○国際的な経済格差と貧困の現状を理解します。			
			期末考査			
3 学 期	1					
	2					
				学年末考査		
	3					

担当者からのメッセージ(学習方法など)

まず、授業を大切にしましょう。授業に積極的に参加して、取り上げられているテーマについて自分なりの考えと意見を持つことを習慣にしてください。資料集の巻頭に挙げられている時事問題によく目を通すことは勿論のこと、日頃から政治経済分野についての新聞記事やテレビのニュースに興味関心をもって接していくことも大切です。幅広く社会的知識を有しておく、現代文の評論や英語の長文読解にもきっと役立つことでしょう。18歳になったら成人となり、有権者でもあります。政治・経済の学習をすることで、自分なりの政治的意見を持って選挙で投票できる一主権者に成長することを目標としてください。

科目名	数学Ⅲ		学年	類型・コース	単位数
			3年	普通科理型	3
学習の目標	極限, 微分法及び積分法の考えについて理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察する能力を培い, 数学のよさを認識できるようにするとともに, それらを活用する態度を育てる。				
使用教材	教科書:『新編 数学Ⅲ』【数研出版】 副教材:『新課程 4プロセス数学Ⅲ』【数研出版】				
評価	評価法	各定期考査による成績。 ◎単元ごとの小テストや、定期考査ごとの課題(ノート)等を参考にして評価する。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	極限, 微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに, 事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	
		b	思考・判断・表現	数列や関数の値の変化に着目し, 極限について考察したり, 関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し, 数学的に考察したりする力, いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し, 事象を数学的に考察したり, 問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度, 粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度, 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。					

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1学期	4	<数学Ⅲ> 第3章 微分法 第1節 導関数	※9月まで週4時間で数学Ⅲを実施 微分係数と導関数 *微分係数や導関数の定義を理解し, 導関数についての様々な性質や公式を導き, それらを導関数の計算に活用できるようにする。 *微分可能性と連続性の関係を理解し, 連続ではあるが微分可能でないことを示す。	中間考査 小テスト	中間考査 小テスト	ノート 振り返りシート

	<p>第2節 いろいろな関数の導関数</p>	<p>導関数の計算 * α の範囲を自然数, 整数, 有理数と拡張しながら, $(x^\alpha)' = \alpha x^{\alpha-1}$ を証明していく考え方や方法を理解する。</p> <p>* 導関数の性質, 積の導関数, 商の導関数, 合成関数の導関数, 逆関数の微分法を理解し, 種々の導関数の計算に利用することができる。</p> <p>いろいろな関数の導関数 * 三角関数の導関数を理解し, 三角関数を含む種々の関数の導関数を計算できる。</p> <p>* 自然対数 e の定義と, 対数関数の導関数を理解し, 対数関数を含む種々の関数の導関数を計算できる。</p> <p>* 指数関数の導関数を理解し, 指数関数を含む種々の関数の導関数を計算できる。</p> <p>第 n 次導関数 * 高次導関数の定義, 表記を理解し, 種々の関数の高次導関数を求めることができる。</p> <p>曲線の方程式と導関数 * 方程式 $F(x, y) = 0$ を関数とみて, 合成関数の導関数を利用して微分することができる</p> <p>* 媒介変数 t で表された関数の導関数を, t の関数として表すことができる。</p>			
5	<p>第4章 微分法の応用</p> <p>第1節 導関数の応用</p>	<p>接線の方程式 * 微分係数の意味を理解しており, 接線の方程式を求めることができる。</p> <p>* 公式を利用して, 法線の方程式を求めることができる。</p> <p>* 傾きや通る 1 点から接線の方程式を求めることができる。</p>			

	第1節 導関数の応用	<p>平均値の定理</p> <p>* 平均値の定理と, その図形的意味を理解し, 具体的に c の値を求めることができる。</p> <p>関数の値の変化</p> <p>* 関数の極大値・極小値や最大値・最小値を調べる際に, 増減表をかくて考察できる。</p> <p>* 導関数の符号と関数の増減の関係を理解し, 導関数を利用して関数の増減が調べられる。</p> <p>* 導関数を利用して, 関数の極値が求められる。</p> <p>* 導関数を利用して, 関数の最大値・最小値を求めることができる。</p>			
中間考査			期 末 考 査	期 末 考 査	ノ ー ト
6	第2節 いろいろな応用	<p>関数のグラフ</p> <p>* 曲線の凹凸の定義を理解し, 第 2 次導関数の符号で曲線の凹凸が判定できる。</p> <p>* 変曲点の定義を理解し, 変曲点が求められる。</p> <p>* 関数の増減, 凹凸, 変曲点, 漸近線, 定義域, $x \rightarrow \pm\infty$ のときの状態などを調べてグラフをかくことができる。</p> <p>* 第 2 次導関数と極値の関係を理解し, 第 2 次導関数を利用して極値を求めることができる。</p> <p>方程式, 不等式への応用</p> <p>* 方程式 $f(x)=a$ の実数解の個数を, 関数 $y=f(x)$ のグラフと直線 $y=a$ の共有点の個数に読み替えて考察できる。</p> <p>* 導関数を利用して, 不等式を証明することができる。</p> <p>速度と加速度</p> <p>* 直線上や平面上を運動する点の速度, 速さ, 加速度の定義を理解し, 点の座標が与えられたときにそれらを求めることができる。</p>	小 テ ス ト	小 テ ス ト	振 り 返 り シ ー ト

		<p>近似式</p> <p>* 導関数を利用して, 種々の関数の近似式を作り, 近似値を求めることができる。</p> <p>課題学習②</p> <p>微分法の応用</p> <p>「最短のケーブルで都市をつなぐ方法」</p>				
	7	<p>第5章</p> <p>積分とその応用</p> <p>第1節</p> <p>不定積分</p> <p>第2節</p> <p>定積分</p>	<p>不定積分とその基本性質</p> <p>* 不定積分の定義や性質を理解し, それを利用して種々の関数の不定積分を計算できる。</p> <p>置換積分法と部分積分法</p> <p>* 被積分関数の形の特徴から, 置換積分法や部分積分法を利用して, 不定積分を求めることができる。</p> <p>いろいろな関数の不定積分</p> <p>* 様々な工夫によって被積分関数を変形することで, 不定積分を求めることができる。</p> <p>定積分とその基本性質</p> <p>* 定積分の定義や性質を理解し, それを利用して種々の関数の定積分を計算できる。</p> <p>置換積分法と部分積分法</p> <p>* 定積分の置換積分法では, 積分区間の変換に注意して定積分を計算している。</p> <p>* 偶関数, 奇関数の定積分の性質を理解し, 積分区間が原点对称のとき, それを利用して定積分の計算をすることができる。</p> <p>* 定積分の置換積分法, 部分積分法を理解し, それを利用して複雑な関数の定積分を計算できる。</p>			
	期末考査					
2 学期	9		<p>定積分のいろいろな問題</p> <p>* 特別な形をした数列の和の極限を, 定積分を利用して計算することができる。</p> <p>* 不等式に現れる式の図形的意味を考慮することで, 定積分を利用して不等式の証明を考察することができる。</p>	<p>中間考査</p> <p>小テスト</p>	<p>中間考査</p> <p>小テスト</p>	<p>ノート</p> <p>振り返りシート</p>

		<p>第3節 積分法の応用</p> <p>面積 *面積を求める際には、グラフの上下関係、積分範囲などを図をかいて考察している。 *直線や曲線で囲まれた部分の面積を、定積分で表して求めることができる。</p> <p>体積 *立体の断面積を積分することで体積が求められることを理解し、体積を求めることができる。 *回転体の体積を求める方法を理解し、回転体の体積を求めることができる。</p> <p>道のり *数直線上を運動する点の座標、道のりを定積分を用いて求めることができる。 *座標平面上の点の座標が媒介変数で表されているとき、点が動く道のりを定積分を用いて求めることができる。</p> <p>曲線の長さ *定積分を用いて、曲線の長さを求めることができる。</p> <p>調和級数と積分法 「数列の極限、積分法とその応用」</p>			
	10	課題学習③	※以降週4時間で数学 C を実施		
	中間考査				
	11				
	12				
	期末考査				
3 学期	1				
	2				
	学年末考査				
	3				

担当者からのメッセージ(学習方法など)

授業用ノートと4プロのノートは分けてください。復習が大切です。

習った問題は、早いうちに問題集の問題を解いて、理解を深めましょう。

科目名	数学 C		学年	類型・コース	単位数
			3年	普通科・理型	1
学習の目標	平面上の曲線と複素数平面について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。				
使用教材	教科書:『新編 数学 C』【数研出版】 副教材:『新課程 4プロセス数学 C』【数研出版】				
評価	評価法	各定期考査による成績。 ◎単元ごとの小テストや、定期考査ごとの課題(ノート)等を参考にして評価する。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	
		b	思考・判断・表現	図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1~5の5段階)にまとめます。					

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1学期	4					
	5					
	中間考査					
	6					
	7					
	期末考査					
2学期	9			中間考査	中間考査	ノート
	10	第3章 複素数平面	※10月から週4時間で数学 C を実施 複素数平面 *1つの複素数が複素数平面上で1つの点を表すことを理解し、点を複素数平面上に表すことができる。 *複素数の絶対値の定義および図形的意味を理	小テスト	小テスト	振り返りシート

		<p>解し, 説明できる。</p> <p>* 複素数の和, 差, 実数倍の, 複素数平面における図形的意味を理解し, 説明できる。</p> <p>複素数の極形式</p> <p>* 複素数の極形式について理解し, 複素数を極形式で表すことができる。</p> <p>* 複素数の積, 商の絶対値, 偏角の性質を理解し, それらを求めることができる。</p> <p>* 共役複素数や$-z$などを極形式でどのように表すか, その定義から考察できる。</p> <p>ド・モアブルの定理</p> <p>* ド・モアブルの定理を理解し, 複素数の n 乗を求めることができる。</p> <p>* 複素数の n 乗根がちょうど n 個存在することを, 極形式を用いて考察できる。</p> <p>* 複素数の積や商が複素数平面上で何を表すか理解している。</p> <p>複素数と図形</p> <p>* 線分の内分点や外分点を表す複素数を求めることができる。</p> <p>* 複素数の方程式について, その意味を考えたり計算したりすることで, 表す図形を求めることができる。</p> <p>* 点 z と連動して動く点 w が描く図形について, その式の意味も含めて考察したり説明したりできる。</p> <p>* 複素数平面上で半直線のなす角を求めることができる。</p> <p>* 複素数平面上で 3 点が一直線上にある条件や 2 直線が垂直に交わる条件を理解し, 利用することができる。</p>			
中間考査			学年末考査	学年末考査	ノート
11	第 4 章 式と曲線 第 1 節 2 次曲線	<p>放物線</p> <p>* 放物線が, 焦点と準線からの距離が等しい点の軌跡であることを理解している。</p> <p>* 軌跡の考え方をを用いて, 放物線の方程式を導くことができる。</p>	小テスト	小テスト	振り返りシート

		<p>第 2 節 媒介変数表示と 極座標</p>	<p>* 放物線の標準形について理解し, 放物線の概形をかいたり焦点や準線を求めたりできる。また, 条件から放物線の方程式を求めることができる。</p> <p>楕円 * 楕円が, 2 つの焦点からの距離の和が一定である点の軌跡であることを理解している。 * 楕円の標準形について理解し, 楕円の概形をかいたり焦点や長軸, 短軸の長さを求めたりできる。 * 焦点の座標などから, 楕円の方程式を求めることができる。 * 焦点が y 軸上にある楕円の概形をかいたり, 焦点や長軸, 短軸の長さを求めたりできる。 * 条件を満たす点の軌跡として, 楕円の方程式を求めることができる。</p> <p>双曲線 * 双曲線が, 2 つの焦点からの距離の差が一定である点の軌跡であることを理解している。 * 双曲線の標準形について理解し, 双曲線の概形をかいたり焦点や頂点, 漸近線を求めたりできる。 * 焦点の座標などから, 双曲線の方程式を求めることができる。 * 直角双曲線の定義や方程式について理解している。 * 焦点が y 軸上にある双曲線の方程式について, 焦点が x 軸上にある双曲線をもとに考察できる。 * 焦点が y 軸上にある双曲線の概形をかいたり, 焦点や頂点, 漸近線を求めたりできる。</p> <p>2 次曲線の平行移動 * x, y の 2 次式を変形して, 2 次曲線の概形を考察することができる。 * 曲線 $F(x-p, y-q)=0$ は曲線 $F(x, y)=0$ を平行移動したものであることを理解している。</p>		
--	--	----------------------------------	--	--	--

		<p>2次曲線と直線</p> <ul style="list-style-type: none"> *2次曲線の接線や接点を2次方程式の実数解を利用して求めることができる。 *2次曲線の接線の方程式の一般形について理解し、接点が与えられたときに接線を求めることができる。 <p>曲線の媒介変数</p> <ul style="list-style-type: none"> *曲線が媒介変数を用いて表される仕組みを理解している。 *媒介変数表示された曲線の方程式を求めることができる。 *条件から点の座標を1つの文字で表し、それを曲線の媒介変数表示と捉えることで、その点が描く曲線を求めることができる。 *円や楕円を媒介変数表示できる <p>極座標と極方程式</p> <ul style="list-style-type: none"> *極座標による表示について理解し、点の極座標を求めたり、極座標が与えられた点の位置を求めたりできる。 *点の座標について、直交座標と極座標を相互に変換できる。 *円や直線を極方程式で表すことができる。また、極方程式で表される曲線を図示することができる。 *直交座標と極座標の関係性を理解したうえで、点の座標や方程式を相互に変換することができる。 <p>コンピュータの利用</p> <ul style="list-style-type: none"> *媒介変数表示された曲線や極方程式で表される曲線を、コンピュータを用いて描くことができる。 			
	12	数学Cの演習			
	期末考査				
3 学期	1				
	2				
	学年末考査				
	3				

担当者からのメッセージ(学習方法など)

授業用ノートと4プロのノートは分けてください。復習が大切です。

習った問題は、早いうちに問題集の問題を解いて、理解を深めましょう。

科目名	総合数学	学年	類型・コース	単位数
		3年	普通科文型 普通科英語コース	4単位
学習の目標	高校数学のまとめとして、各分野における理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。			
使用教材	主たる教材:『チャート式 新課程 基礎からの数学Ⅰ+A』(数研出版) 『チャート式 新課程 基礎からの数学Ⅱ+B』(数研出版) 副教材:『新課程ニューステージ数学演習Ⅰ・A+Ⅱ・B・C』(数研出版)			
評価	評価法	定期考査、小テスト、課題考査、ノート、プリント、課題(宿題)、振り返りシートで評価します。		
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
		b	思考・判断・表現	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。
		c	主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1~5の5段階)にまとめます。				

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1学期	4	数学ⅠA 演習	数と式	中間考査	中間考査	ノート
			2次関数			
	5		図形と計量	小テスト	課題	プリント
			データの分析			
6	数学ⅡB 演習	場合の数と確率	期末考査	期末考査	振り返りシート	
		図形の性質				
中間考査			テスト	課題	プリント	
		整数の性質				
		図形と式				
		三角関数				
		指数・対数関数				
		微分法・積分法				

	7		数列		ノート	
	期末考査					振り返りシート
2 学期	9	数学BC 演習	ベクトル 統計	中間考査	中間考査	ノート
	10	総合問題演習	数学 I A の応用発展問題	小テスト	課題	
					ノート	プリント
	中間考査					
	11	総合問題演習	数学 II BC の応用発展問題	期末考査	期末考査	振り返りシート
	12	総合問題演習	数学 I A・II BC の応用発展問題	テスト	課題	
				ノート	ノート プリント	
期末考査					振り返りシート	
3 学期	1					
	2					
	学年末考査					
	3					

担当者からのメッセージ(学習方法など)

演習の中で、解答に導くための解説を生徒にさせる中で、論理的に導く手段や、わかりやすい解説を考えながら発表に取り組む。

科目名	総合数学		学年	類型・コース	単位数
			3年	普通科理型	4単位
学習の目標	高校数学のまとめとして、各分野における理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。				
使用教材	主たる教材:『チャート式 新課程 基礎からの数学Ⅰ+A』(数研出版) 『チャート式 新課程 基礎からの数学Ⅱ+B』(数研出版) 副教材:『共通テスト分野別演習 数学Ⅰ・A/Ⅱ・B・C』(Z会出版)				
評価	評価法	定期考査、小テスト、課題考査、ノート、プリント、課題(宿題)、振り返りシートで評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	
		b	思考・判断・表現	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1~5の5段階)にまとめます。					

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1学期	4	数学ⅠA 演習	数と式	中間考査	中間考査	ノート
			2次関数			
	5		図形と計量	小テスト	課題	プリント
			データの分析			
6	数学ⅡBC 演習	場合の数と確率	期末考査	期末考査	振り返りシート	
		図形の性質				
中間考査			テスト	課題	ノート	
		整数の性質				
		式と証明				
		複素数と方程式				
		図形と方程式				
		三角関数			プリント	

			指数・対数関数 微分法と積分法		ノート	振り返り シート
	7		数列 ベクトル 統計的な推測			
	期末考査					
2 学期	9	総合問題演習	数学ⅠAの応用発展問題	中間考査	中間考査	ノート
	10		数学ⅡBCの応用発展問題	小テスト	課題 ノート	プリント
	中間考査					
	11	総合問題演習	数学ⅠA・ⅡBCの総合問題	期末考査	期末考査	振り返り シート
	12		数学ⅠA・ⅡBCの総合問題	テスト	課題 ノート	ノート プリント
	期末考査					振り返り シート
3 学期	1					
	2					
	学年末考査					
	3					

担当者からのメッセージ(学習方法など)

演習の中で、解答に導くための解説を生徒にさせる中で、論理的に導く手段や、わかりやすい解説を考えながら発表に取り組む。

科目名	数学演習		学年	類型・コース	単位数
			3年	普通科理型	3
学習の目標	高校数学のまとめとして、各分野における理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。				
使用教材	主たる教材:『チャート式 新課程 基礎からの数学Ⅰ+A』(数研出版) 『チャート式 新課程 基礎からの数学Ⅱ+B』(数研出版) 副教材:『新課程メジアン数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B・C[ベクトル]』(数研出版)				
評価	評価法	定期考査、小テスト、課題考査、ノート、プリント、課題(宿題)で評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	
		b	思考・判断・表現	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1~5の5段階)にまとめます。					

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1学期	4	数学ⅠA 演習	数と式	中間考査	中間考査	ノート
			関数と方程式・不等式 式と証明, 論理			
	5		整数の性質	期末考査	期末考査	ノート
			場合の数と確率 図形の性質			
	中間考査				期末考査	期末考査
6	数学ⅡB 演習	図形と式 三角関数 指数・対数関数 微分法・積分法	小テスト	課題	プリント	
7		数列		ノート		

		期末考査				
2 学 期	9	数学BC 演習	ベクトル 統計	中間考査	中間考査	ノート
	10	総合問題演習	数学 I A の応用発展問題	小テスト	課題	プリント
	11	総合問題演習	数学 II BC の応用発展問題	期末考査	期末考査	ノート
				小テスト	課題	プリント
		期末考査				
3 学 期	1					
	2					
			学年末考査			
	3					

担当者からのメッセージ(学習方法など)

演習の中で、解答に導くための解説をしてもらいます。論理的に導く手段や、わかりやすい解説を考えながら発表に取り組んでください。考察する力や表現する力をさらに身につけましょう。

科目名	物理	学年	類型・コース	単位数
		3年	普通科	4
学習の目標	物理的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しを持って観察、実験を行うことなどを通して、科学的に探究するために必要な資質・能力を身につける。			
使用教材	教科書:『物理』(数研出版) 副教材:『リードα物理』(数研出版)			
評価	評価法	定期考査、実験レポート、問題集への取り組み、発表の内容などで評価します。		
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができています。
		b	思考・判断・表現	習得した「知識・技能」を活用して、課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けています。
		c	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、粘り強く学習に取り組んでいる。自ら学習を調整しようとしている。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1~5の5段階)にまとめます。				

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1学期	4	波の伝わり方 1.波と媒質の運動 2.正弦波の式 3.波の伝わり方 音の伝わり方 1.音の伝わり方 2.音のドップラー効果	<ul style="list-style-type: none"> * 波動とは、媒質の1点に起こった振動が、媒質中を少しずつ遅れて伝わっていく現象であることを確認し、波を表す要素についても確認する。 * 波源が単振動をするとき、その振動が周囲の媒質に伝わると正弦波が生じることを理解する。原点での単振動の式をもとにして正弦波の一般式を正しくつくれる。 * 波の干渉・反射・屈折・回折の現象を理解し、ホイヘンスの原理によって反射・屈折の法則を導くことができる。 * ドップラー効果について学び、音源が動く場合には、観測者の運動に関係なく波長が変化することを理解する。 	中間考査	中間考査	授業態度 発表内容 実習態度 (通年) 問題集取組
	5	光 1.光の性質 2.レンズと鏡	<ul style="list-style-type: none"> * 光にも反射・屈折の法則が成り立つことを理解する。 * 凸レンズと凹レンズについて、レンズがつくる像を図および実験を通して理解する。また、写像公式との関係を理解する。球面鏡がつくる像は、レンズの場合と似た手順で求められることを理解する 			
	中間考査					
	6	3.光の干渉と回折	<ul style="list-style-type: none"> * ヤングの実験において、複スリットからスクリーン上の点までのそれぞれの距離の差から明線、暗線の式が導かれ、この式から隣りあう明線の間隔も求められることを理解する。薄膜による光の干渉についても、光路差のほかに、薄膜中での波長の変化や反射の際の位相の変化にも注意して考えられる。 			

		<p>電場</p> <p>1.静電気力</p> <p>2.電場</p> <p>3.電位</p>	<p>* 原子は原子核と電子からできており、帯電は電子の過不足によって起こり、電気現象は電子が主役であることをはっきり認識する。静電気力の性質とクーロンの法則を理解する。</p> <p>* 電荷のまわりにできる電場は、試験電荷にはたらく静電気力の大きさと向きにより定まるベクトルであることを理解する。</p> <p>* 試験電荷がもつ、静電気力による位置エネルギーが電位であることを理解する。電場と電位との関係を理解する。</p>	レポート	レポート	レポート
	7	4.物質と電場	<p>* 電場の中に物体を置くと、導体か不導体かにより、現象が異なることを理解する。電場の中に置かれた導体内には電場がなく、導体全体が等電位となることをきちんと理解する。</p>			
	期末考査			期末考査	期末考査	問題集取組
2 学期	9	<p>5.コンデンサー</p> <p>電流</p> <p>1.オームの法則</p> <p>2.直流回路</p> <p>3.半導体</p> <p>電流と磁場</p> <p>1.磁場</p> <p>2.電流のつくる磁場</p> <p>3.電流が磁場から受ける力</p> <p>4.ローレンツ力</p>	<p>* 一様な電場内の電場と電位差との関係などから、コンデンサーの極板に蓄えられる電気量が電位差に比例することが導かれることを示し、電気容量を理解する。また極板間に挿入された誘電体のはたらし、および誘電率、比誘電率を理解する。コンデンサーの接続についても理解する。</p> <p>* 導体を流れる電流の大きさが電圧に比例することを示し、電気抵抗を理解する。</p> <p>* 電流や電圧の意味を確認しながらキルヒホッフの法則をきちんと理解する。</p> <p>* 抵抗率が導体と不導体の中間にある半導体について、電流が流れるしくみや特徴を理解する。</p> <p>* 磁石の性質を示し、磁場の中に置かれた物体が磁化すること、および磁性体について学習する。</p> <p>* 直線電流が周囲につくる磁場、円形電流が円の中心につくる磁場、ソレノイドがその内部につくる磁場について、電流・磁場の関係を理解する。</p> <p>* 電流が磁場から受ける力について理解し、その力の向きをしっかりと把握する。また、平行電流が及ぼしあう力についてその向きと大きさを理解する。</p> <p>* 電流が磁場から受ける力を微視的に考察し、運動する荷電粒子が磁場から受けるローレンツ力について理解する。</p>			
	10	<p>電磁誘導と電磁波</p> <p>1.電磁誘導の法則</p> <p>2.自己誘導と相互誘導</p> <p>3.交流の発生</p> <p>4.交流回路</p>	<p>* 電磁誘導の現象を実感し、ファラデーの電磁誘導の法則、エネルギーの移り変わり、磁場によるローレンツ力など、異なる面から考えられるようにする。</p> <p>* コイルに流れる電流が変化すると誘導起電力が生じ、その大きさは電流の変化の速さに比例することを理解する。電流の流れているコイルには、磁場の形でエネルギーが蓄えられていることを把握する。</p> <p>* 交流の発生のしくみと、交流の実効値について、その意味をしっかりと理解する。</p> <p>* 交流回路のインピーダンスについても学習する。共振現象と電気振動の項目で、振動が生じる理由とそのときの固有周波数が共振周波数と一致することを学習する。</p>	レポート	レポート	レポート

		5.電磁波	* 電磁波の発生のしくみについて理解する。	中間考査	中間考査	問題集取組
	中間考査					
11	電子と光 1.電子 2.光の粒子性 3.X線 4.粒子の波動性 原子と原子核 1.原子の構造とエネルギー準位 2.原子核 3.放射線とその性質 4.核反応と核エネルギー 5.素粒子 物理学が築く未来	* 陰極線の本体が電子であることを理解する。トムソンの実験とミリカンの実験とから、電子の比電荷、電荷、質量の各値がどのように得られたかを理解する。 * 光電効果のから、光電効果の現象が定性的にも定量的にも説明できることを学習する。 * X線の発生について簡単に扱い、X線を光子と考えると、最短波長の大きさが説明できることを理解する。コンプトン効果により、光子のエネルギー保存、運動量保存の式が理解できるようにする。 * 光の粒子性と対比し、電子に波動性があることを理解する。 * ラザフォードの原子模型が登場するまでの経過について理解する。 * 水素原子の発するスペクトルの式とボーアの水素原子模型について説明し、水素原子のエネルギー準位を理解する。 * 原子核が陽子と中性子とからなること、また核力、同位体について理解する。 * α 線、 β 線、 γ 線の本体が何であることを理解し、 α 崩壊と β 崩壊について学ぶ。半減期と放射線の性質と利用について理解する。 * 原子核反応について学び、質量欠損、結合エネルギーの定義を正しく理解する。核分裂反応、核融合反応について解放されるエネルギーについて理解する。 * 自然の階層性について説明し、素粒子とは何かを把握する。 * これまでの学習内容が、現在における最先端の研究や産業などの基盤となっていることを、具体例を通して理解する。				
12	総合演習	* 共通テスト対策 * 物理基礎, 物理の総復習, 問題演習	期末考査	期末考査	各種演習への取り組み	
	期末考査					
3 学 期	1	総合演習	* 共通テスト対策			各種演習への取り組み
	2					
	学年末考査					
	3					

担当者からのメッセージ(学習方法など)

自らの手で計算を行うことがなにより重要です。これを基礎として、現象を数式に落とし込み、式から現象を想像する能力が体得されます。そして、図を書く習慣を身につけて下さい。図を書くことで、与えられて状況を整理する能力が身につきます。図も式も、まずは手を動かして自分の手で書いてみてください。

科目名	化学		学年	類型・コース	単位数
			3年	普通科理型	3
学習の目標	化学の基本的な知識を基にして、より広く深く、化学の知識を系統的に定着させ、発展的な問題に道筋を立て、取り組もうとする姿勢を身に着けさせる。				
使用教材	教科書:『化学』(数研出版) 副教材:『新課程リードα化学』(数研出版)、 『サイエンスビュー 化学総合資料』(実教出版)、『新課程対応直前演習化学』(Learn-S)				
評価	評価法	定期考査、実験レポート等の提出物で評価			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	知識の習得や知識の概念的な理解ができています。実験操作の基本的な技術の知識的理解ができています。	
		b	思考・判断・表現	習得した「知識・技能」を活用して、演習問題を解くための思考力・判断力・表現力などを身に付けています。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、粘り強く学習に取り組んでいる、自ら学習を調整しようとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1~5の5段階)にまとめます。					

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1学期	4	金属元素(典型元素)	典型元素内の金属元素について、性質、特徴を理解する。	中間考査 期末考査	中間考査 期末考査	提出物
	5	金属元素(遷移元素)	遷移元素の理解を深め、金属イオンの系統分析ができるようにする。			
	中間考査					
	6	有機化合物の分類と分析	有機化合物の特徴を理解し、分類ができるようにする。			
	7	脂肪族炭化水素	専門用語を確実に把握し、名称から分子式、構造式が頭にうかんでくるようにする。			
期末考査						
2学期	9	アルコールと関連化合物	有機化合物の1大勢力であるアルコールについて、その反応を理解する。	中間考査 期末考査	中間考査 期末考査	提出物
	10	芳香族化合物	構造式決定ができるようにする。			
	中間考査					
	11	高分子化合物	単糖をはじめ、高分子化合物の構造式が書けるようにする。			
	12	化学全般演習	総合問題を通して化学全般の復習を行い、化学に対する不安を軽減する。			
期末考査						

3 学 期	1					
	2					
	学年末考査					
	3					

担当者からのメッセージ(学習方法など)

化学基礎内での履修内容である酸化還元反応を確実なものとし、化合物内の各原子の酸化数を求められるようにしておく。教科書に示されている有機化合物の反応式を紙に書いて理解しながら覚えていく。苦手な個所を残したままにせず、わかるまで時間をかける。教科書の本文以外の『発展』『Zoom』『参考』『コラム』も本文と同じように読み込み理解する。授業終了後は落ち着いて対応できませんので、放課後聞きに来てください。

科目名	生物		学年	類型・コース	単位数
			3年	普通科理型	4
学習の目標	生物に関する種々の現象や生物の構造等を学ぶ中で、生物学に関する知識を身につけると共に、科学的・論理的な思考力を養う。その結果、生物学を探究するために必要な資質・能力を育成する。				
使用教材	教科書:『生物』(数研出版) 副教材:『新課程版スクエア最新図説生物』(第一学習社)				
評価	評価法	定期考査、実験レポート、授業ノートなどで評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができています。	
		b	思考・判断・表現	習得した「知識・技能」を活用して、課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けています。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、粘り強く学習に取り組んでいる。自ら学習を調整しようとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1~5の5段階)にまとめます。					

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1学期	4	第4章 遺伝情報の発現と発生 5. 遺伝子を扱う技術 第5章 動物の反応と行動 1. 刺激の受容	<ul style="list-style-type: none"> * 遺伝子を扱うさまざまな技術について、その原理を理解する。遺伝子を扱うさまざまな技術が、私たちの生活に与える影響を理解する。 * * バイオテクノロジー調べ学習 * 視覚は、目の網膜で需要された光刺激の情報が、神経によって脳に伝えられて生じることを理解する。需要期の種類によって、刺激を受け取るしくみがそれぞれ異なることを理解する。 	節末チェック (通年) レポート	節末チェック (通年) レポート	節末チェック 授業態度 実習態度 (通年) レポート
	5	2. ニューロンとその興奮 3. 情報の統合 4. 刺激への反応 5. 動物の行動	<ul style="list-style-type: none"> * ニューロンの興奮は細胞膜で生じる電気的な変化であり、イオンチャネルやポンプのはたらきで生じることを理解する。ニューロンに生じた興奮が軸索を伝わり、シナプスを介して次のニューロンへと伝えられることを理解する。 * ヒトの神経系が、末しょう神経系と中枢神経系から構成されていることを理解する。ヒトの脳の構造とはたらきについて理解する。 * 効果器である筋肉の構造を理解する。筋肉が、神経系から伝達されてきた刺激を受け取って主宿するしくみを理解する。 			

			* 動物の行動は、遺伝的にプログラムされた生得的な行動と経験によって変化する学習行動によって形成されることを理解する。			
	中間考査			中間考査	中間考査	問題集課題 授業ノート
	6	第6章 植物の環境 応答 1. 植物の生活と植物ホルモン 2. 発芽の調節 3. 成長の調節 4. 器官の分化と花芽形成の調節	* 植物は、周囲の環境の変化を感知して、自らのからだを適切な時期に適切な時期に適切な状態へと変化させていることを理解する。環境からの情報の伝達には、植物ホルモンがはたらいていることを理解する。 * 植物の種子が、周囲の環境を感知して休眠・発芽するしくみと、その意義を理解する。 * 植物の成長は、光や重力などの要因によって調節されていることを理解する。植物の成長の調節には、植物ホルモンが重要なはたらきをしていることを理解する。 * 植物は、葉、茎、根、花といった器官からなり、これらの器官への分化を通して植物が成長していくことを理解する。植物の器官の分化は、成長の段階や環境の変化に応じて調節されていることを理解する。			
	7	5. 環境の変化に対する応答 6. 配偶子形成と受精	* 植物が、環境要因の変化に応じて、気孔を開閉し、二酸化炭素や水の出入りを調節するしくみを理解する。植物が、病気や食害、生育に不適当な環境で、どのように自身を守っていくのかを理解する。 * 被子植物における配偶子形成と受精の仕組みを理解する。種子の形成や果実の成熟のしくみを理解する。			
	期末考査			期末考査	期末考査	問題集課題 授業ノート
2 学期	9	第7章 生物群集と生態系 1. 個体群の構造と性質 2. 個体群内の個体間の関係 3. 異なる種の個体群間の関係	* 個体群の成長のしかたには個体群密度が影響していることを理解する。生物の生存曲線の型は、その生物の年齢ごとの死亡率によって大別されることを理解する。 * 同種の動物が集まって暮らすことで生じる利益と不利益を理解する。動物の個体群内の個体どうしの間で、どのような関係が見られるか理解する。 * 生態系は異なる生物種からなる個体群の集まりで構成されており、個体群どうしは互いに深く関係していることを理解する。生物群集の中で多様な生物種が共存できるしくみを理解する。			
	10	4. 生態系の物質生産と物質循環 5. 生態系と人間生活	* 上位の栄養段階の生物では、利用できるエネルギー量にかぎりがあることを理解する。生態系における物質の循環とエネルギーの移動について、それぞれの特徴を理解する。			

			<ul style="list-style-type: none"> * 生態系や生物多様性の保全の重要性を理解する。 人間活動によって生態系に影響を及ぼすしくみを理解する。 * 血液凝固観察実習 	レポート 中間審査	レポート 中間審査	レポート 問題集課題 授業ノート
中間審査						
	11	総合演習	<ul style="list-style-type: none"> * 共通テスト対策 * 生物基礎, 生物の総復習, 問題演習 	期末審査	期末審査	各種演習への 取り組み
	12	総合演習	<ul style="list-style-type: none"> * 共通テスト対策 * 生物基礎, 生物の総復習, 問題演習 			
期末審査						
3 学期	1	総合演習	* 共通テスト対策			
	2					
	学年末審査					
	3					

担当者からのメッセージ(学習方法など)

日々の授業においては、その日の内容を理解できるよう、授業中および家庭で教科書を読もう。図説や問題集を利用しながら、復習をしましょう。審査前には、再度問題集を解き、授業中に行った問題演習の確認をしましょう。実験や実習においては、目的を理解し、取り組み、「考察」を大切にされたレポートを作成し、必ず提出しましょう。

科目名	化学演習		学年	類型・コース	単位数
			3年	普通科文型・英語コース	2
学習の目標	物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しを持って観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を身につける。				
使用教材	主たる教材:『サイエンスビュー 化学総合資料』(実教出版) 副教材:『リードα化学基礎』(数研出版)				
評価	評価法	定期考査・小テスト・振り返りシート・実験レポート・演習ノートなど			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	
		b	思考・判断・表現	物質とその変化から問題を見出し、見通しを持って観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど科学的に探究している。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	物質とその変化に主体的に関わり、見通しを持ったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1~5の5段階)にまとめます。				

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1学期	4	酸化還元反応 酸化と還元 酸化剤と還元剤	<ul style="list-style-type: none"> * 酸化還元反応の3つの定義を学び、酸化還元反応には電子の移動が伴うことを見出す。 * 酸化数を求めることができるようになる。 * 酸化剤と還元剤のはたらきを示す反応式から酸化剤と還元剤のはたらきについて説明できる。 * 酸化還元反応の化学反応式から、量的関係を見出し、過酸化水素の濃度を求めることができる。 	小テスト	ノート 中間考査	振り返りシート ノート
	5	金属の酸化還元反応	<ul style="list-style-type: none"> * 金属樹ができることに興味を持ち、金属の単体とイオンがどのような場合に金属樹が生じるのかを見出すことができる。 * イオン化傾向と酸との反応について、酸と酸化力の違いを明確にしながらか説明できる。 			
	中間考査			中間考査		
	6	酸化還元反応の利用	<ul style="list-style-type: none"> * 電解質水溶液と金属を利用することによって電池ができることを学び、電池には充電のできない一次電池と充電のできる二次電池があることを理解する。 あわせて、金属を鉱石から得る製錬の手法についても理解する。 	小テスト		
7	化学が拓く世界	<ul style="list-style-type: none"> * 化学基礎で学んだ物質の特徴や化学変化が、食品保存、化粧品、浄水場といったさまざまな場面の技術と結びついていることを学習することによって、化学基 			振り返りシート	

			礎で学んだことの理解をさらに深める。			
	期末考査			期末考査	期末考査	ノート
2 学期	9	化学基礎の振り返り	* 化学基礎全般の復習を行い、単元横断の思考力を身につける	中間考査	中間考査	振り返りシート
	10	化学基礎の振り返り	* 化学基礎全般の復習を行い、単元横断の思考力を身につける			
	中間考査					
	11	化学基礎の振り返り	* 化学基礎全般の復習を行い、単元横断の思考力を身につける			
	12	化学基礎の振り返り	* 化学基礎全般の復習を行い、単元横断の思考力を身につける	期末考査	期末考査	振り返りシート
	期末考査					
3 学期	1					
	2					
	学年末考査					
	3					

担当者からのメッセージ(学習方法など)

1年次から学んできた化学基礎の内容を振り返り、総合的な力を身につけるようにしていきます。また、身近なところにある化学を理解できるようにしていきましょう。

科目名	生物演習		学年	類型・コース	単位数
			3年	普通科文型・英語コース	2
学習の目標	生物の基本的な知識を系統的に理解し定着させることで、思考力判断力の礎をつくる。その結果、様々な事象に対して応用して考察できるようにする。				
使用教材	主たる教材:『新課程 スクエア最新図説生物』(第一学習社) 副教材:『スタディアップノート 生物基礎』(数研出版)、『直前演習生物基礎』(Learn—S)				
評価	評価法	定期考査、実験レポート、授業ノート、振り返りシートなどで評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	知識の習得や知識の概念的な理解ができています。 実験操作の基本的な技術の知識的理解ができています。	
		b	思考・判断・表現	習得した「知識・技能」を活用して、演習問題を解くための思考力・判断力・表現力などを身に付けている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、粘り強く学習に取り組んでいる、自ら学習を調整しようとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1~5の5段階)にまとめます。					

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法					
				a	b	c			
1学期	4	(スタディアップ) 生物の多様性と共通性 エネルギー代謝	・原核細胞と真核細胞の違い、細胞内構造を理解できる。 ・細胞内における代謝とエネルギーの関係を理解できる。	中間考査	ノート	ノート			
	5	遺伝子とそのはたらき 神経系と内分泌系による調節	・遺伝物質であるDNAの構造や規則性を理解できる。 ・細胞分裂やセントラルドグマについて理解できる。 ・自律神経系と内分泌系による調節について理解できる。				振り返りシート		
	中間考査								
	6	免疫 植生の多様性と分布	・免疫で働く細胞やそのシステムについて理解できる。 ・地球上の植生分布について理解できる。				中間考査	中間考査	
	7	生態系とその保全	・生態系における物質循環とエネルギーの流れを理解できる。					ノート	ノート
	期末考査						期末考査	期末考査	振り返りシート
2学期	9	(プリント) 総復習	・複雑な問題に取り組むことができる。 ・与えられた条件をもとに適切な結論を導くことができる。	中間考査	中間考査	振り返りシート			
	10	総復習							
	中間考査								

	11	(直前演習) 総復習		期末考査	期末考査	
	12	総復習				
	期末考査					
3 学期	1					
	2					
	学年末考査					
	3					

担当者からのメッセージ(学習方法など)

1年次に履修した「生物基礎」の演習を通し、内容を振り返ることにより、知識から思考へとステップアップを目指します。授業の時間中に思考の過程を説明します。

科目名	地学演習		学年	類型・コース	単位数
			3年	普通科文型・英語コース	2
学習の目標	自然界における様々な事象の因果関係を正しく理解しながら、地球と宇宙を概観し、その歴史を把握し、自然を総合的に見る視点を養う。また、演習を通して総合的な力を身に付ける。				
使用教材	主たる教材:『ニューステージ 新地学図表』(浜島書店) 副教材:『チェック&演習 地学基礎』(数研出版)、『直前演習地学基礎』(Learn—S)				
評価	評価法	定期考査、小テスト、振り返りシートなどで評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	知識の習得や知識の概念的な理解ができています。 実験操作の基本的な技術の知識的理解ができています。	
		b	思考・判断・表現	習得した「知識・技能」を活用して、演習問題を解くための思考力・判断力・表現力などを身に付けている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、粘り強く学習に取り組んでいる、自ら学習を調整しようとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1~5の5段階)にまとめます。					

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1学期	4	(プリント)総復習	・基礎的な事項や、地学的な基本の思考法の理解。	中間考査	中間考査	小テスト
	5	総復習				
	中間考査					
	6	(チェック&演習) 総復習	・簡単な問題に取り組む。 ・問題文から与えられた条件を読み解く。	期末考査	期末考査	小テスト
	7	総復習				
期末考査					振り返りシート	
2学期	9	総復習		中間考査	中間考査	小テスト
	10	(プリント)総復習	・基礎的な事項や、地学的な基本の思考法の理解を完成。			
	中間考査					
	11	(直前演習) 総復習	・複雑な問題に取り組む。 ・与えられた条件をもとに適切な結論を導く。	期末考査	期末考査	小テスト
	12	総復習				
期末考査					振り返りシート	

3 学 期	1					
	2					
	学年末考査					
	3					

担当者からのメッセージ(学習方法など)

地学的な知識を、この1年を通じて体系的に捉え直します。

科目名	体育		学年	類型・コース	単位数
			3年	普通科、理数科	3
学習の目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と課題を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質や能力を育成する。				
使用教材	教科書:『新高等保健体育・体育編』(大修館書店)				
評価	評価法	各種目における技能、各種目活動案、及び観察(授業内での仲間との連携やその種目に対する主体性)で評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解していると同時に、それらの技能を身に付けている。	
		b	思考・判断・表現	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し、判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1~5の5段階)にまとめます。					

期	月	学習項目・単元 【時間数】	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1学期	4	体づくり運動① (体ほぐしの運動) 【3】	<ul style="list-style-type: none"> * 軽快な運動を行い、心と体は互いに影響し、変化することや心身の状態に気付き、仲間と自主的に関わることができる。 * 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 	学習カード (知識) 行動観察 (運動)	行動観察 (仲間との連携)	行動観察
		陸上競技 (走・投) 【6】	<p>【陸上競技】</p> <ul style="list-style-type: none"> * 記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けることができる。 * 動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を他者に伝えることができる。 * 陸上競技に主体的に取り組むとともに、ルールやマナーを大切に、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にすることができる。 	【陸上競技】 学習カード (知識)	行動観察 (仲間との連携)	行動観察

	5	<p>体育理論① 「生涯スポーツの見方・考え方」 【3】</p> <p>選択競技① (ソフトボール/バスケットボール/バレーボール/バドミントン/卓球/ダンス) 【9】</p>	<p>【体育理論①】 *スポーツの楽しみ方は、個人のスポーツの経験や学習によって育まれたスポーツに対する欲求や考え方、健康や体力を求める必要性や個人の健康目標などによっても変化するものであることが理解できる。</p> <p>【選択競技①】 ※種目選択については年間を通して2領域以上を選択すること。 *各種目について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技術で仲間と連携しゲームを展開することができる。 ア)ゴール型では、安定したボール操作と空間をつくりだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防することができる。 イ)ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防ができる。 ウ)ベースボール型では、安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などによって攻防することができる。 エ)創作ダンスで、現したいテーマにふさわしいイメージを捉え、個や群で、緩急強弱のある動きや空間の使い方に変化を付けて即興的に表現したり、簡単な作品にまとめたりして踊ることができる。 *攻防などの自己やグループの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 *選択した運動に自主的に取り組むとともに、作戦などについての話し合いに貢献しようとしていたり、互いに助け合い、教え合ったりできる。</p>	ワークシート	行動観察 ワークシート	行動観察
	中間考査実施予定なし					
	6	選択競技① 【9】	上記選択競技①同様。			
	7	選択競技① 【3】	上記選択競技①同様。			
	期末考査					
2 学期	9	<p>体育理論② 「ライフスタイルとスポーツの楽しみ方」 【3】</p> <p>体づくり運動② (実生活に生かす運動の計画) 【3】</p>	<p>【体育理論②】 *ライフステージやライフスタイルによっては、仕事の種類や暮らし方によって運動にかかわる機会が減少することもあるため、仕事と生活の調和を図ること、運動の機会を生み出す工夫をすること、多様なかわり方を実現するための具体的な設計の仕方があることが理解できる。 *自己の狙いに応じて、健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るために、継続的な運動の計画を立てることができる。 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。</p>	ワークシート 学習カード(知識)	行動観察 ワークシート 行動観察	行動観察 行動観察

	<p>選択競技② (バドミントン/卓球/テニス/サッカー/バスケットボール/ダンス)</p> <p>【6】</p>	<p>【選択競技②】</p> <p>※種目選択については年間を通して2領域以上を選択すること。</p> <p>*各種目について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技術で仲間と連携しゲームを展開することができる。</p> <p>ア)ゴール型では、安定したボール操作と空間をつくりだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防することができる。</p> <p>イ)ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防ができる。</p> <p>ウ)ベースボール型では、安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などによって攻防することができる。</p> <p>エ)創作ダンスで、現したいテーマにふさわしいイメージを捉え、個や群で、緩急強弱のある動きや空間の使い方に変化を付けて即興的に表現したり、簡単な作品にまとめたりして踊ることができる。</p> <p>*攻防などの自己やグループの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。</p> <p>*選択した運動に自主的に取り組むとともに、作戦などについての話し合いに貢献しようとしたり、互いに助け合い、教え合ったりできる。</p>	<p>【バドミントン/卓球/テニス/サッカー/バスケットボール/ダンス】</p> <p>学習カード(知識)</p> <p>その種目のフォームや記録、仲間との連携プレイ(技能)</p>	<p>【バドミントン/卓球/テニス/サッカー/バスケットボール/ダンス】</p> <p>行動観察(仲間との連携)</p>	<p>【バドミントン/卓球/テニス/サッカー/バスケットボール/ダンス】</p> <p>行動観察</p>
10	<p>選択競技② 【9】</p>	<p>上記選択競技②同様。</p>			
<p>中間考査実施予定なし</p>					
11	<p>体育理論③ 「スポーツ推進のための施策と課題」</p> <p>【3】</p> <p>選択競技③ (バドミントン/卓球/テニス/バレーボール/サッカー/バスケットボール/ダンス)</p> <p>【9】</p>	<p>【体育理論③】</p> <p>*スポーツには健康で生き生きとした生活をもたらしたり、様々な人々とつながったりするなどの可能性がある反面、過度な運動による健康への悪影響や勝利を優先するあまり人間関係を悪化させるなどの問題点があることが理解できる。</p> <p>*人生に潤いをもたらす適切な関わり方を継続するには「する」だけでなく、豊かなスポーツライフを実現するための「みる」、「支える」、「知る」などの卒業後のスポーツへの多様な関わり方を構想したり、設計したりすることが重要であることが理解できる。</p> <p>【選択競技③】</p> <p>※種目選択については年間を通して2領域以上を選択すること。</p> <p>*各種目について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技術で仲間と連携しゲームを展開することができる。</p> <p>ア)ゴール型では、安定したボール操作と空間をつくりだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防することができる。</p> <p>イ)ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した</p>	<p>ワークシート</p> <p>【バドミントン/卓球/テニス/バレーボール/サッカー/バスケットボール】</p>	<p>ワークシート</p> <p>【バドミントン/卓球/テニス/バレーボール/サッカー/バスケットボール】</p>	<p>行動観察</p> <p>【バドミントン/卓球/テニス/バレーボール/サッカー/バスケットボール】</p>

		<p>用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防ができる。</p> <p>ウ)ベースボール型では、安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などによって攻防することができる。</p> <p>エ)創作ダンスで、現したいテーマにふさわしいイメージを捉え、個や群で、緩急強弱のある動きや空間の使い方に変化を付けて即興的に表現したり、簡単な作品にまとめたりして踊ることができる。</p> <p>*攻防などの自己やグループの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。</p> <p>*選択した運動に自主的に取り組むとともに、作戦などについての話し合いに貢献しようとしたり、互いに助け合い、教え合ったりすることができる。</p>	<p>学習カード(知識)</p> <p>仲間との連携プレイ(技能)</p>	<p>学習カード(知識)</p> <p>仲間との連携プレイ(技能)</p>	<p>行動観察</p>
12	選択競技③ 【6】	上記選択競技③同様。			
期末考査実施予定なし					

担当者からのメッセージ(学習方法など)

選択競技においては、副教材を用いて各種目における知識(技術の名称等)を説明しながら、各種目の技能レベルの向上を目指し、仲間と協力して取り組むことができるよう指導します。

体育理論においては、教科書やプリントを用いて授業を進め、個人がスポーツ文化を創造する主体となっていることに気付くことができるよう指導します。

科目名	英語コミュニケーションⅢ		学年	類型・コース	単位数
			3年	普通科・理数科	4
学習の目標	英語学習の特質を踏まえ、聞くこと、読むこと、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くことの五つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、「知識・技能」「思考・判断・表現」を一体的に育成するとともに、その過程を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を育成する。				
使用教材	教科書:『CREATIVE English Communication III』（第一学習社） 副教材:『CREATIVE English Communication III・予習ノート』（第一学習社） 『WORDBOX 英単語・熟語 Advanced』（美誠社）				
評価	評価法	①定期考査の成績, ②単語テストの成績, ③授業への取り組みの様子, ④エッセイや英文読解演習などの課題の提出状況と解答内容, ⑤授業時間内に行うパフォーマンス課題の実施状況から総合的に判断して評価する。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	外国語の音声や語彙, 表現, 文法, 言語の働きなどの理解を深めるとともに, これらの知識を, 聞くこと, 読むこと, 話すこと, 書くことによる実際のコミュニケーションにおいて, 目的や場面, 状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	
		b	思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面, 状況などに応じて, 日常的な話題や社会的な話題について, 外国語で情報や考えなどの概要や要点, 詳細, 話し手や書き手の意図などを的確に理解したり, これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を身に付けている	
		c	主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め, 聞き手, 読み手, 話し手, 書き手に配慮しながら, 主体的, 自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。					

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1 学期	4	Lesson1 Fast, Safe, and Efficient!	<p><題材内容とねらい></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本・世界の高速鉄道の発達についての確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。 ・鈍行列車のよい点を述べたエッセイを読み、本文と読み比べ、高速鉄道と鈍行列車のどちらが好きか自分の考えを述べるができる。 <p><文型・文法事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・分詞構文の否定形について理解を深め、これらを適切に活用することができる。 <p><場面・状況など></p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞き手に配慮して、自分が好きな交通機関とその理由について説明しようとしている。 	いずれも 定期考査 の成績を 元に評価 する。	いずれも 定期考査 の成績・ 授業での パフォーマンスを 元に評価 する。	いずれも 提出課題、単語 テストへの 取り組み、要約 文の解答 などから 評価する。
	5	Lesson 2 Water for Life	<p><題材内容とねらい></p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の水問題を解決しうる日本の井戸掘り技術についての確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。 ・クラウドファンディングサイトを読み、本文と読み比べ、どの組織を支援したいか自分の考えを述べることができる。 <p><文型・文法事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・無生物主語について理解を深め、これらを適切に活用することができる。 <p><場面・状況など></p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞き手に配慮して、水問題についてのプレゼンテーションをしようとしている。 			
	中間考査					
	6	Lesson 3 Athletes as Human Rights Leaders	<p><題材内容とねらい></p> <ul style="list-style-type: none"> ・アスリートが発する社会的なメッセージについての確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。 ・オリンピック憲章の条項を読み、本文と読み比べ、条項を改定すべきか自分の考えを述べることができる。 <p><文型・文法事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・進行形の受け身について理解を深め、これらを適切に活用することができる。 <p><場面・状況など></p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック憲章についてのディベートをしようとしている。 			

	7	Lesson 4 The Linguistic Genius	<p><題材内容とねらい></p> <ul style="list-style-type: none"> ・赤ちゃんの言語習得についての的確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。 ・実験説明のスクリプトを読み、本文と読み比べ、ある説を証明するのに適した実験を選んで具体的に説明できる。 <p><場面・状況など></p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国語を学習する目的について複数のパラグラフで書こうとしている。 			
	期末考査					
2 学期	9	Lesson 5 Going Digital: What Does the Digital Age Bring?	<p><題材内容とねらい></p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会のデジタル化についての的確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。 ・紙の文書のよさを伝えるブログを読み、本文と読み比べ、デジタル化された文書と紙の文書のどちらが好きか自分の考えを述べることができる。 <p><場面・状況など></p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子書籍と紙の書籍についてのディベートをしようとしている。 			
	10	Lesson 6 Mirrors of the Times	<p><題材内容とねらい></p> <ul style="list-style-type: none"> ・人類と病気の戦いの歴史についての的確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。 ・人物の伝記を読み、本文と読み比べることで理解を深め、その人物の説明を書くことができる。 <p><場面・状況など></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活様式を環境に合わせることにについて複数のパラグラフで説明しようとしている。 			
		Lesson 7 Eat Well, Play Well!	<p><題材内容とねらい></p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ栄養についての的確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。 ・レシピを読み、本文と読み比べ、ほかに付け加えるべき料理や食材について、自分の考えを説明することができる。 <p><場面・状況など></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分でレシピを考え、それがどのように体によいかを書こうとしている。 			
中間考査						
	11	Lesson 8 The Bridge to the Science	<p><題材内容とねらい></p> <ul style="list-style-type: none"> ・橋の構造と役割についての的確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。 			

		World	<ul style="list-style-type: none"> ・橋の建築計画を聞き, 本文の情報と比較し, どの地点にどの橋が適しているか, 自分の考えを説明することができる。 <文型・文法事項> ・形容詞で始まる分詞構文について理解を深め, これらを適切に活用することができる。 <場面・状況など> 			
		Lesson 9 Notorious RBG	<ul style="list-style-type: none"> ・特徴的な建築物の紹介をしようとしている。 <題材内容とねらい> ・ギンズバーグ判事の生涯についての的確に理解し, その内容を整理して伝えることができる。 ・ギンズバーグ判事が実際に関わった判例を読み, 本文と読み比べ, 彼女が目指したものについて, 自分の考えを説明することができる。 <文型・文法事項> ・if ...以外が条件を表す仮定法について理解を深めることができる。 <場面・状況など> ・男女差別について例を挙げ, 自分の考えを複数のパラグラフで書こうとしている。 			
	12	Lesson 10 No Rain, No Rainbow	<ul style="list-style-type: none"> <題材内容とねらい> ・三代達也さんの生き方についての的確に理解し, その内容を整理して伝えることができる。 ・上地結衣選手のインタビュー記事を読み, 本文と読み比べ, 三代さんと上地選手の共通点について, やり取りして伝え合うことができる。 <文型・文法事項> ・否定語を含まない否定について理解を深め, これらを適切に活用することができる。 <場面・状況など> ・バリアフリーの環境が大切な理由について, 自分の考えをプレゼンテーションしようとしている。 			
			期末考査			
3 学 期	1	共通テスト演習				
	2	長文読解演習				
			学年末考査			
	3					

担当者からのメッセージ(学習方法など)

① 毎日英語から離れないこと。② 語彙や英文、文法事項の1つ1つを丁寧にあつかうこと。③「なんとなくわかる」は「わかっていない」ということだと認識して、細やかな気を配りながら学習すること

科目名	論理・表現Ⅲ		学年	類型・コース	単位数
			3年	普通科文型	3
学習の目標	英語学習の特質を踏まえ、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くことの3つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、「知識・技能」「思考・判断・表現」を一体的に育成するとともに、その過程を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を育成する。				
使用教材	教科書:『EARTHRISE English Logic and Expression Ⅲ Advanced』(数研出版)				
評価	評価法	定期考査、小テスト、パフォーマンス課題(4回)、提出物			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	外国語の音声や語彙, 表現, 文法, 言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、主に、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	
		b	思考・判断・表現	日常的话题や社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開、事前の準備などにおいて、ディベートやディスカッション、スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通じて、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ち、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して書いたり話したりして伝えることができる。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けている。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1~5の5段階)にまとめます。				

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1 学期	4	Lesson 1 Coming to Japan Lesson 2	パラグラフの展開パターン Travel, Shopping, Education の3ジャンル に渡ってメールへの返信及び自ら質問するメールを書く	パフォーマンス課題	パフォーマンス課題	提出物 パフォーマンス課題
	5	Online shopping Lesson 3 Preparing to study abroad	Speech & Presentation	中間考査	中間考査	
	中間考査					
	6	Lesson 4 24-hour stores	コンビニエンスストアの24時間営業の是非 スマート農業の普及	パフォーマンス課題	パフォーマンス課題	提出物 パフォーマンス課題
	7	Lesson 5 Smart agriculture	人気になると思う家事ロボットの機能について 意見を述べる	期末考査	期末考査	

		Lesson 6 Aiman, the household robot					
	期末考査						
2 学期	9	Lesson 7	お好み焼きの作り方や駅への道で遭遇した出来事などをイラストを使って説明する 高校生向けの科学イベントへの参加申込書などを申込書・応募書類を作る	パフォーマンス課題 中間考査	パフォーマンス課題 中間考査	提出物 パフォーマンス課題	
	10	Recipes Lesson 8 A helping hand Lesson 9 International Science Fair					
	中間考査						
	11	Lesson 10 Future career plans					
	12	Lesson 11 Media reliability Lesson 12 Garbage problems	インターンシップへの応募書類を作る 情報の信頼性に関する資料の要点を整理するとともに意見を述べる 要点を整理する②ゴミ問題に関する資料の要点を整理するとともに意見を述べる Debate	パフォーマンス課題 期末考査	パフォーマンス課題 期末考査	提出物 パフォーマンス課題	
期末考査							
3 学期	1	共通テスト演習					
	2	英作文添削指導 英作文添削指導					
	学年末考査						
	3						

担当者からのメッセージ(学習方法など)

論理・表現Ⅲでは資格・検定試験の「話す／書く」問題や、大学入試の英作文に対応する力を養成できるように、これまで以上に「メールを書く」や「意見を述べる」といった活動が増えます。そこに至るまでの過程に「話す」活動を行ったり、あるいは書いたものを元に「話す」活動を行ったりして、表現力をバランスよく鍛えます。

ひき続き、主観的な感情だけを述べるのではなく、自らの主張を理由やデータで強化し、誰から見ても分かりやすい意見を表現できるように熟考して書くことを心がけましょう。

科目名	論理・表現Ⅲ	学年	類型・コース	単位数
		3年	普通科理型 普通科英語コース 理数科	2
学習の目標	英語学習の特質を踏まえ、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くことの3つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、「知識・技能」「思考・判断・表現」を一体的に育成するとともに、その過程を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を育成する。			
使用教材	教科書:『EARTHRISE English Logic and Expression Ⅲ Advanced』(数研出版)			
評価	評価法	定期考査、小テスト、パフォーマンス課題(3回)、提出物		
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	外国語の音声や語彙, 表現, 文法, 言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、主に、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。
		b	思考・判断・表現	日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開、事前の準備などにおいて、ディベートやディスカッション、スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通じて、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ち、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して書いたり話したりして伝えることができる。
		c	主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けている。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1~5の5段階)にまとめます。				

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1学期	4	Lesson 1 Coming to Japan Lesson 2	パラグラフの展開パターン Travel, Shopping, Education の3ジャンルに渡ってメールへの返信及び自ら質問するメールを書く	パフォーマンス課題	パフォーマンス課題	提出物
	5	Online shopping Lesson 3 Preparing to study abroad	Speech & Presentation	中間考査	中間考査	パフォーマンス課題
	中間考査					
	6	Lesson 4 24-hour stores	コンビニエンスストアの24時間営業の是非 スマート農業の普及	期末考査	期末考査	提出物
	7	Lesson 5 Smart agriculture	人気になると思う家事ロボットの機能について意見を述べる			

		Lesson 6 Aiman, the household robot					
	期末考査						
2 学期	9	Lesson 7	お好み焼きの作り方や駅への道で遭遇した出来事などをイラストを使って説明する 高校生向けの科学イベントへの参加申込書などを申込書・応募書類を作る Discussion	パフォーマンス課題 中間考査	パフォーマンス課題 中間考査	提出物 パフォーマンス課題	
	10	Recipes Lesson 8 A helping hand Lesson 9 International Science Fair					
	中間考査						
	11	Lesson 10 Future career plans					
	12	Lesson 11 Media reliability Lesson 12 Garbage problems	インターンシップへの応募書類を作る 情報の信頼性に関する資料の要点を整理するとともに意見を述べる 要点を整理する②ゴミ問題に関する資料の要点を整理するとともに意見を述べる Debate	パフォーマンス課題 期末考査	パフォーマンス課題 期末考査		
期末考査							
3 学期	1	共通テスト演習					
	2	英作文添削指導 英作文添削指導					
	学年末考査						
	3						

担当者からのメッセージ(学習方法など)

論理・表現Ⅲでは資格・検定試験の「話す／書く」問題や、大学入試の英作文に対応する力を養成できるように、これまで以上に「メールを書く」や「意見を述べる」といった活動が増えます。そこに至るまでの過程に「話す」活動を行ったり、あるいは書いたものを元に「話す」活動を行ったりして、表現力をバランスよく鍛えます。

ひき続き、主観的な感情だけを述べるのではなく、自らの主張を理由やデータで強化し、誰から見ても分かりやすい意見を表現できるように熟考して書くことを心がけましょう。

科目名	実践コミュニケーションⅢ	学年	類型・コース	単位数
		3年	普通科英語コース	2
学習の目標	地域社会、外国の諸問題、芸術・文化、価値観など幅広い話題について情報を収集・分析・整理し、英語によるコミュニケーションを通じて自らの考えを深め、国際社会へと積極的に発信できる意欲・能力を身につける。			
使用教材	自主教材			
評価	評価法	スピーキングテスト(2回)・定期考査(2回) 授業での活動状況、発表内容・課題の提出		
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深め、知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。
		b	思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている
		c	主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1~5の5段階)にまとめます。			

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1学期	4	商品開発	・市場調査(インタビュー)	英作文 課題 パフォーマンス スピーキン グテスト 期末考査	英作文 課題 パフォーマンス スピーキン グテスト 期末考査	英作文 課題 パフォーマンス
	5	プロジェクト	・企画会議(ディスカッション) ・宣伝(プレゼンテーション)			
	中間考査					
	6	パラメンタリ	トピックについて理解する。			
	7	ーディバート TOEIC 演習	個々に必要な情報を収集する。 メリット・デメリットまとめ、情報交換する。			
	期末考査					
2学期	9	模擬裁判 ①	・リサーチ	英作文 課題 パフォーマンス スピーキン グテスト 期末考査	英作文 課題 パフォーマンス スピーキン グテスト 期末考査	英作文 課題 パフォーマンス
	10		・プレゼンテーション ・パネルディスカッション			
	中間考査					
	11	模擬裁判 ②	・リサーチ			
	12		・プレゼンテーション ・パネルディスカッション			

	期末考査				
3 学 期	1				
	2				
	学年末考査				
	3				

担当者からのメッセージ(学習方法など)

PCⅢは国際社会へ飛び立つ準備の総仕上げになり、自ら学ぶ姿勢がより大切になってきます。

授業時数が増える分、グループ単位でのプロジェクト的な活動が増えます。1年生の時から身につけた誤りを恐れずに英語を使う力、2年生のディスカッションで培ったわからないことをそのままにせずコミュニケーションを継続させる力を駆使して、よりよいものを自分たちで生み出すことを学びます。

外の世界に出ていくには表現力も大切です。英語コースの中でしか通用しない英語になっていませんか？英語のしくみ、使われている言葉の意味や働きを理解し、話そうとすることを聞き手に正確に伝え、相手の言うことに対して適切な受け答えができなければ「英語を話せる」とは言えません。

プレゼンテーション大会で得た社会的な問題への関心を継続し、意欲的に情報収集してください。背景にある文化を尊敬と愛情を持って理解しつつ、感情や主観に流されずに物事を判断できる批判的思考力を持った大人になることを目指しましょう。

科目名	理数数学Ⅱ		学年	類型・コース	単位数
			3年	理数科	4
学習の目標	極限, 微分法及び積分法の考えについて理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察する能力を培い, 数学のよさを認識できるようにするとともに, それらを活用する態度を育てる。				
使用教材	教科書:『新編 数学 B』『新編 数学Ⅲ』【数研出版】 副教材:『新課程 4プロセス数学Ⅱ+B』『新課程 4プロセス数学Ⅲ』【数研出版】				
評価	評価法	各定期考査による成績。 ◎単元ごとの小テストや、定期考査ごとの課題(ノート)等を参考にして評価する。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	極限, 微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに, 事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	
		b	思考・判断・表現	数列や関数の値の変化に着目し, 極限について考察したり, 関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し, 数学的に考察したりする力, いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し, 事象を数学的に考察したり, 問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度, 粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度, 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1~5の5段階)にまとめます。					

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c

1 学期	4	<p><数学 B> 第2章統計的な推測 第1節確率分布</p> <p>第2節統計的な推測</p>	<p>確率変数と確率分布 * 確率変数や確率分布について、用語の意味を理解している。 * 確率変数や確率分布について、用語の意味を理解している。</p> <p>確率変数の期待値と分散 * 確率変数の期待値、分散、標準偏差を求めることができる。 * 確率変数の期待値 $E(X)$ や分散 $V(X)$ などの計算式を理解して活用できる。 * 確率変数の期待値、分散、標準偏差などを用いて確率分布の特徴を考察することができる。</p> <p>確率変数の和と積 * 確率変数の和の期待値を、公式を利用して求めることができる。</p> <p>二項分布 * 反復試行の結果を、二項分布を用いて表すことができる。 * 二項分布に従う確率変数の期待値や分散を求めることができる。</p> <p>正規分布 * 確率密度関数や分布曲線の定義を理解し、連続型確率変数について、確率を求めることができる * 正規分布に従う確率変数 X を標準正規分布に従う確率変数 Z に変換できる。 * 標準正規分布表を用いて、正規分布に関する確率の計算ができる。</p> <p>母集団と標本 * 復元抽出と非復元抽出について理解している。</p> <p>標本平均の分布 * 標本平均が確率変数であることを理解している。 * 母平均と母標準偏差から標本平均の期待値と標準偏差を求めることができる。</p> <p>推定 * 母平均と母標準偏差の考え方や標本平均の期</p>	<p>中間考査</p> <p>小テスト</p>	<p>中間考査</p> <p>小テスト</p>	<p>ノート</p> <p>振り返りシート</p>
---------	---	--	--	-------------------------	-------------------------	---------------------------

	<p>第3章 数学と社会生活</p>	<p>待値と標準偏差の考え方がわかる。 仮説検定 * 推定に関わる用語・記号を適切に活用することができる。</p> <p>数学を活用した問題解決 * 日常生活における問題や社会問題を数学的に考察するときの手順を理解している。</p> <p>社会の中にある数学 * 選挙における議席の割り振り方を理解し、与えられた手順通りに割り振ることができる。</p> <p>変化をとらえる * 移動平均を用いると長期的な変化の傾向が調べやすくなることを理解している。 * 散布図について理解し、傾向を読み取ることができる。</p>			
5	<p><数学Ⅲ> 第3章 微分法 第1節 導関数</p> <p>第2節 いろいろな関数の導関数</p>	<p>微分係数と導関数 * 微分係数や導関数の定義を理解し、導関数についての様々な性質や公式を導き、それらを導関数の計算に活用できるようにする。</p> <p>* 微分可能性と連続性の関係を理解し、連続ではあるが微分可能でないことを示す。</p> <p>導関数の計算 * αの範囲を自然数, 整数, 有理数と拡張しながら, $(x^\alpha)' = \alpha x^{\alpha-1}$を証明していく考え方や方法を理解する。</p> <p>* 導関数の性質, 積の導関数, 商の導関数, 合成関数の導関数, 逆関数の微分法を理解し, 種々の導関数の計算に利用することができる。</p> <p>いろいろな関数の導関数 * 三角関数の導関数を理解し, 三角関数を含む種々の関数の導関数を計算できる。</p> <p>* 自然対数 e の定義と, 対数関数の導関数を理</p>			

		<p>解し, 対数関数を含む種々の関数の導関数を計算できる。</p> <p>* 指数関数の導関数を理解し, 指数関数を含む種々の関数の導関数を計算できる。</p> <p>第 n 次導関数 * 高次導関数の定義, 表記を理解し, 種々の関数の高次導関数を求めることができる。</p> <p>曲線の方程式と導関数 * 方程式 $F(x, y) = 0$ を関数とみて, 合成関数の導関数を利用して微分することができる</p> <p>* 媒介変数 t で表された関数の導関数を, t の関数として表すことができる。</p>			
中間考査					
6	<p>第4章 微分法の応用</p> <p>第1節 導関数の応用</p>	<p>接線の方程式 * 微分係数の意味を理解しており, 接線の方程式を求めることができる。</p> <p>* 公式を利用して, 法線の方程式を求めることができる。</p> <p>* 傾きや通る 1 点から接線の方程式を求めることができる。</p>	<p>期 末 考 査</p> <p>小 テ ス ト</p>	<p>期 末 考 査</p> <p>小 テ ス ト</p>	<p>ノート</p> <p>振り返りシート</p>
7	<p>第1節 導関数の応用</p>	<p>平均値の定理 * 平均値の定理と, その図形的意味を理解し, 具体的に c の値を求めることができる。</p>			

			<p>関数の値の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> * 関数の極大値・極小値や最大値・最小値を調べる際に、増減表をかいて考察できる。 * 導関数の符号と関数の増減の関係を理解し、導関数を利用して関数の増減が調べられる。 * 導関数を利用して、関数の極値が求められる。 * 導関数を利用して、関数の最大値・最小値を求めることができる。 <p>関数のグラフ</p> <ul style="list-style-type: none"> * 曲線の凹凸の定義を理解し、第 2 次導関数の符号で曲線の凹凸が判定できる。 * 変曲点の定義を理解し、変曲点が求められる。 * 関数の増減、凹凸、変曲点、漸近線、定義域、$x \rightarrow \pm\infty$のときの状態などを調べてグラフをかくことができる。 * 第 2 次導関数と極値の関係を理解し、第 2 次導関数を利用して極値を求めることができる。 			
			期末考査			
2 学 期	9	第2節 いろいろな応用	<p>方程式、不等式への応用</p> <ul style="list-style-type: none"> * 方程式 $f(x)=a$ の実数解の個数を、関数 $y=f(x)$ のグラフと直線 $y=a$ の共有点の個数に読み替えて考察できる。 * 導関数を利用して、不等式を証明することができる。 <p>速度と加速度</p> <ul style="list-style-type: none"> * 直線上や平面上を運動する点の速度、速さ、加速度の定義を理解し、点の座標が与えられたときにそれらを求めることができる。 <p>近似式</p> <ul style="list-style-type: none"> * 導関数を利用して、種々の関数の近似式を作り、近似値を求めることができる。 	中間考査 小テスト	期末考査 小テスト	ノート 振り返りシート
	10	第5章	不定積分とその基本性質			

	<p>積分とその応用 第1節 不定積分</p> <p>第2節 定積分</p>	<p>*不定積分の定義や性質を理解し、それを利用して種々の関数の不定積分を計算できる。</p> <p>置換積分法と部分積分法 *被積分関数の形の特徴から、置換積分法や部分積分法を利用して、不定積分を求めることができる。</p> <p>いろいろな関数の不定積分 *様々な工夫によって被積分関数を変形することで、不定積分を求めることができる。</p> <p>定積分とその基本性質 *定積分の定義や性質を理解し、それを利用して種々の関数の定積分を計算できる。</p>			
中間考査					
11		<p>置換積分法と部分積分法 *定積分の置換積分法では、積分区間の変換に注意して定積分を計算している。 *偶関数、奇関数の定積分の性質を理解し、積分区間が原点对称のとき、それを利用して定積分の計算をすることができる。 *定積分の置換積分法、部分積分法を理解し、それを利用して複雑な関数の定積分を計算できる。</p> <p>定積分のいろいろな問題 *特別な形をした数列の和の極限を、定積分を利用して計算することができる。 *不等式に現れる式の図形的意味を考えることで、定積分を利用して不等式の証明を考察することができる。</p> <p>面積 *面積を求める際には、グラフの上下関係、積分範囲などを図をかいて考察している。 *直線や曲線で囲まれた部分の面積を、定積分で表して求めることができる。</p>	<p>期 末 考 査</p> <p>小 テ ス ト</p>	<p>期 末 考 査</p> <p>小 テ ス ト</p>	<p>ノ ー ト</p> <p>振 り 返 り シ ー ト</p>

			<p>体積</p> <p>*立体の断面積を積分することで体積が求められることを理解し, 体積を求めることができる。</p> <p>*回転体の体積を求める方法を理解し, 回転体の体積を求めることができる。</p> <p>道のり</p> <p>*数直線上を運動する点の座標, 道のりを定積分を用いて求めることができる。</p> <p>*座標平面上の点の座標が媒介変数で表されているとき, 点が動く道のりを定積分を用いて求めることができる。</p> <p>曲線の長さ</p> <p>*定積分を用いて, 曲線の長さを求めることができる。</p>			
	12		<p>数学Ⅲ分野問題演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1章 関数 ・第2章 極限 ・第3章 微分法 ・第4章 微分法の応用 ・第5章 積分法とその応用 			
	期末考査					
3 学期	1					
	2					
	学年末考査					
	3					

担当者からのメッセージ(学習方法など)

授業用ノートと4プロセスのノートは分けてください。

復習が大切です。習った単元は早いうちに問題集の問題を解いて、理解を深めましょう。

科目名	数学演習		学年	類型・コース	単位数
			3年	理数科	3
学習の目標	高校数学のまとめとして、各分野における理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。				
使用教材	主たる教材:『チャート式 新課程 基礎からの数学Ⅰ+A』(数研出版) 『チャート式 新課程 基礎からの数学Ⅱ+B』(数研出版) 副教材:『新課程メジアン数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B・C[ベクトル]』(数研出版)				
評価	評価法	定期考査、小テスト、課題考査、ノート、プリント、課題(宿題)で評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	
		b	思考・判断・表現	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1~5の5段階)にまとめます。					

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1学期	4	数学ⅠA 演習	数と式 関数と方程式・不等式 式と証明, 論理	中間考査	中間考査	ノート
				小テスト	課題	プリント
	5		整数の性質 場合の数と確率 図形の性質		ノート	
				中間考査		
	6	数学ⅡB 演習	図形と式 三角関数 指数・対数関数 微分法・積分法	小テスト	課題	プリント
7		数列		ノート		

	期末考査					
2 学 期	9	数学BC 演習	ベクトル 統計	中間考査	中間考査	ノート
	10	総合問題演習	数学 I A の応用発展問題	小テスト	課題	プリント
	中間考査					
	11	総合問題演習	数学 II BC の応用発展問題	期末考査	期末考査	ノート
12	総合問題演習	数学 I A・II BC の応用発展問題		ノート		
期末考査						
3 学 期	1					
	2					
	学年末考査					
	3					

担当者からのメッセージ(学習方法など)

演習の中で、解答に導くための解説をしてもらいます。論理的に導く手段や、わかりやすい解説を考えながら発表に取り組んでください。考察する力や表現する力をさらに身につけましょう。

科目名	理数物理		学年	類型・コース	単位数
			3年	理数科	4
学習の目標	物理的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しを持って観察、実験を行うことなどを通して、科学的に探究するために必要な資質・能力を身につける。				
使用教材	教科書:『物理』(数研出版) 副教材:『リードα物理』(数研出版)				
評価	評価法	定期考査、実験レポート、問題集への取り組み、発表の内容などで評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができています。	
		b	思考・判断・表現	習得した「知識・技能」を活用して、課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けています。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、粘り強く学習に取り組んでいる。自ら学習を調整しようとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1~5の5段階)にまとめます。					

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1学期	4	波の伝わり方 1.波と媒質の運動 2.正弦波の式 3.波の伝わり方 音の伝わり方 1.音の伝わり方 2.音のドップラー効果	<ul style="list-style-type: none"> * 波動とは、媒質の1点に起こった振動が、媒質中を少しずつ遅れて伝わっていく現象であることを確認し、波を表す要素についても確認する。 * 波源が単振動をするとき、その振動が周囲の媒質に伝わると正弦波が生じることを理解する。原点での単振動の式をもとにして正弦波の一般式を正しくつくれる。 * 波の干渉・反射・屈折・回折の現象を理解し、ホイヘンスの原理によって反射・屈折の法則を導くことができる。 * ドップラー効果について学び、音源が動く場合には、観測者の運動に関係なく波長が変化することを理解する。 	中間考査	中間考査	授業態度 発表内容 実習態度 (通年) 問題集取組
	5	光 1.光の性質 2.レンズと鏡	<ul style="list-style-type: none"> * 光にも反射・屈折の法則が成り立つことを理解する。 * 凸レンズと凹レンズについて、レンズがつくる像を図および実験を通して理解する。また、写像公式との関係を理解する。球面鏡がつくる像は、レンズの場合と似た手順で求められることを理解する 			
	中間考査					
	6	3.光の干渉と回折	<ul style="list-style-type: none"> * ヤングの実験において、複スリットからスクリーン上の点までのそれぞれの距離の差から明線、暗線の式が導かれ、この式から隣りあう明線の間隔も求められることを理解する。薄膜による光の干渉についても、光路差のほかに、薄膜中での波長の変化や反射の際の位相の変化にも注意して考えられる。 			

		<p>電場</p> <p>1.静電気力</p> <p>2.電場</p> <p>3.電位</p>	<p>* 原子は原子核と電子からできており、帯電は電子の過不足によって起こり、電気現象は電子が主役であることをはっきり認識する。静電気力の性質とクーロンの法則を理解する。</p> <p>* 電荷のまわりにできる電場は、試験電荷にはたらく静電気力の大きさと向きにより定まるベクトルであることを理解する。</p> <p>* 試験電荷がもつ、静電気力による位置エネルギーが電位であることを理解する。電場と電位との関係を理解する。</p>	レポート	レポート	レポート
	7	4.物質と電場	<p>* 電場の中に物体を置くととき、導体か不導体かにより、現象が異なることを理解する。電場の中に置かれた導体内には電場がなく、導体全体が等電位となることをきちんと理解する。</p>			
	期末考查			期末考查	期末考查	問題集取組
2 学期	9	<p>5.コンデンサー</p> <p>電流</p> <p>1.オームの法則</p> <p>2.直流回路</p> <p>3.半導体</p> <p>電流と磁場</p> <p>1.磁場</p> <p>2.電流のつくる磁場</p> <p>3.電流が磁場から受ける力</p> <p>4.ローレンツ力</p>	<p>* 一様な電場内の電場と電位差との関係などから、コンデンサーの極板に蓄えられる電気量が電位差に比例することが導かれることを示し、電気容量を理解する。また極板間に挿入された誘電体のはたらし、および誘電率、比誘電率を理解する。コンデンサーの接続についても理解する。</p> <p>* 導体を流れる電流の大きさが電圧に比例することを示し、電気抵抗を理解する。</p> <p>* 電流や電圧の意味を確認しながらキルヒホッフの法則をきちんと理解する。</p> <p>* 抵抗率が導体と不導体の中間にある半導体について、電流が流れるしくみや特徴を理解する。</p> <p>* 磁石の性質を示し、磁場の中に置かれた物体が磁化すること、および磁性体について学習する。</p> <p>* 直線電流が周囲につくる磁場、円形電流が円の中心につくる磁場、ソレノイドがその内部につくる磁場について、電流・磁場の関係を理解する。</p> <p>* 電流が磁場から受ける力について理解し、その力の向きをしっかりと把握する。また、平行電流が及ぼしあう力についてその向きと大きさを理解する。</p> <p>* 電流が磁場から受ける力を微視的に考察し、運動する荷電粒子が磁場から受けるローレンツ力について理解する。</p>			
	10	<p>電磁誘導と電磁波</p> <p>1.電磁誘導の法則</p> <p>2.自己誘導と相互誘導</p> <p>3.交流の発生</p> <p>4.交流回路</p>	<p>* 電磁誘導の現象を実感し、ファラデーの電磁誘導の法則、エネルギーの移り変わり、磁場によるローレンツ力など、異なる面から考えられるようにする。</p> <p>* コイルに流れる電流が変化すると誘導起電力が生じ、その大きさは電流の変化の速さに比例することを理解する。電流の流れているコイルには、磁場の形でエネルギーが蓄えられていることを把握する。</p> <p>* 交流の発生のしくみと、交流の実効値について、その意味をしっかりと理解する。</p> <p>* 交流回路のインピーダンスについても学習する。共振現象と電気振動の項目で、振動が生じる理由とそのときの固有周波数が共振周波数と一致することを学習する。</p>	レポート	レポート	レポート

		5.電磁波	* 電磁波の発生のしくみについて理解する。	中間考査	中間考査	問題集取組
	中間考査					
11	電子と光 1.電子 2.光の粒子性 3.X線 4.粒子の波動性 原子と原子核 1.原子の構造とエネルギー準位 2.原子核 3.放射線とその性質 4.核反応と核エネルギー 5.素粒子 物理学が築く未来	* 陰極線の本体が電子であることを理解する。トムソンの実験とミリカンの実験とから、電子の比電荷、電荷、質量の各値がどのように得られたかを理解する。 * 光電効果のから、光電効果の現象が定性的にも定量的にも説明できることを学習する。 * X線の発生について簡単に扱い、X線を光子と考え、最短波長の大きさが説明できることを理解する。コンプトン効果により、光子のエネルギー保存、運動量保存の式が理解できるようにする。 * 光の粒子性と対比し、電子に波動性があることを理解する。 * ラザフォードの原子模型が登場するまでの経過について理解する。 * 水素原子の発するスペクトルの式とボーアの水素原子模型について説明し、水素原子のエネルギー準位を理解する。 * 原子核が陽子と中性子とからなること、また核力、同位体について理解する。 * α 線、 β 線、 γ 線の本体が何であることを理解し、 α 崩壊と β 崩壊について学ぶ。半減期と放射線の性質と利用について理解する。 * 原子核反応について学び、質量欠損、結合エネルギーの定義を正しく理解する。核分裂反応、核融合反応について解放されるエネルギーについて理解する。 * 自然の階層性について説明し、素粒子とは何かを把握する。 * これまでの学習内容が、現在における最先端の研究や産業などの基盤となっていることを、具体例を通して理解する。				
12	総合演習	* 共通テスト対策 * 物理基礎, 物理の総復習, 問題演習	期末考査	期末考査	各種演習への取り組み	
	期末考査					
3 学 期	1	総合演習	* 共通テスト対策			各種演習への取り組み
	2					
	学年末考査					
	3					

担当者からのメッセージ(学習方法など)

自らの手で計算を行うことがなにより重要です。これを基礎として、現象を数式に落とし込み、式から現象を想像する能力が体得されます。そして、図を書く習慣を身につけて下さい。図を書くことで、与えられて状況を整理する能力が身につきます。図も式も、まずは手を動かして自分の手で書いてみてください。

科目名	理数化学		学年	類型・コース	単位数
			3年	理数科	4
学習の目標	化学の基本的な知識を基にして、より広く深く、化学の知識を系統的に定着させ、発展的な問題に道筋を立て、取り組もうとする姿勢を身に着けさせる。				
使用教材	教科書:『化学』(数研出版) 副教材:『新課程リードα化学基礎・化学』(数研出版)、 『サイエンスビュー 化学総合資料』(実教出版)、『新課程対応直前演習化学』(Learn-S)				
評価	評価法	定期考査、実験レポート等の提出物で評価			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	知識の習得や知識の概念的な理解ができています。実験操作の基本的な技術の知識的理解ができています。	
		b	思考・判断・表現	習得した「知識・技能」を活用して、演習問題を解くための思考力・判断力・表現力などを身に付けています。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、粘り強く学習に取り組んでいる、自ら学習を調整しようとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1~5の5段階)にまとめます。					

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1学期	4	化学反応の速さとしくみ	吸熱反応でも発熱反応でも、温度が高くなるほど、反応速度は増大することを理解する。	中間考査 期末考査 期末考査	中間考査 期末考査 期末考査	提出物
	5	化学平衡	正反応と逆反応の関係を理解する。			
	中間考査					
	6	非金属元素	非金属元素に対する理解を深める。			
	7	金属元素(典型元素)	典型元素内の金属元素について、性質、特徴を理解する。			
期末考査						
2学期	9	金属元素(遷移元素)	遷移元素の理解を深め、金属イオンの系統分析ができるようにする。	中間考査 期末考査 期末考査	中間考査 期末考査 期末考査	提出物
	10	有機化合物	構造式決定ができるようにする。			
	中間考査					
	11	高分子化合物	単糖をはじめ、高分子化合物の構造式が書けるようにする。			
	12	化学全般演習	総合問題を通して化学全般の復習を行い、化学に対する不安を軽減する。			
期末考査						

3 学 期	1					
	2					
	学年末考査					
	3					

担当者からのメッセージ(学習方法など)

化学基礎内での履修内容である酸化還元反応を確実なものとし、化合物内の各原子の酸化数を求められるようにしておく。教科書に示されている有機化合物の反応式を紙に書いて理解しながら覚えていく。苦手な個所を残したままにせず、わかるまで時間をかける。教科書の本文以外の『発展』『Zoom』『参考』『コラム』も本文と同じように読み込み理解する。授業終了後は落ち着いて対応できませんので、放課後聞きに来てください。

科目名	理数生物		学年	類型・コース	単位数
			3年	理数科	4
学習の目標	生物に関する種々の現象や生物の構造等を学ぶ中で、生物学に関する知識を身につけると共に、科学的・論理的な思考力を養う。その結果、生物学を探究するために必要な資質・能力を育成する。				
使用教材	教科書:『生物』(数研出版) 副教材:『新課程版スクエア最新図説生物』(第一学習社)				
評価	評価法	定期考査、実験レポート、授業ノートなどで評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができています。	
		b	思考・判断・表現	習得した「知識・技能」を活用して、課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けています。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、粘り強く学習に取り組んでいる。自ら学習を調整しようとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1~5の5段階)にまとめます。					

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1 学期	4	第4章 遺伝情報の発現と発生 5. 遺伝子を扱う技術 第5章 動物の反応と行動 1. 刺激の受容	<ul style="list-style-type: none"> * 遺伝子を扱うさまざまな技術について、その原理を理解する。遺伝子を扱うさまざまな技術が、私たちの生活に与える影響を理解する。 * * バイオテクノロジー調べ学習 * 視覚は、目の網膜で需要された光刺激の情報が、神経によって脳に伝えられて生じることを理解する。需要期の種類によって、刺激を受け取るしくみがそれぞれ異なることを理解する。 	節末チェック (通年) レポート	節末チェック (通年) レポート	節末チェック 授業態度 実習態度 (通年) レポート
	5	2. ニューロンとその興奮 3. 情報の統合 4. 刺激への反応 5. 動物の行動	<ul style="list-style-type: none"> * ニューロンの興奮は細胞膜で生じる電気的な変化であり、イオンチャネルやポンプのはたらきで生じることを理解する。ニューロンに生じた興奮が軸索を伝わり、シナプスを介して次のニューロンへと伝えられることを理解する。 * ヒトの神経系が、末しょう神経系と中枢神経系から構成されていることを理解する。ヒトの脳の構造とはたらきについて理解する。 			

			<ul style="list-style-type: none"> * 効果器である筋肉の構造を理解する。筋肉が、神経系から伝達されてきた刺激を受け取って主宿するしくみを理解する。 * 動物の行動は、遺伝的にプログラムされた生得的な行動と経験によって変化する学習行動によって形成されることを理解する。 	中間考査	中間考査	問題集課題 授業ノート
中間考査						
	6	第6章 植物の環境 応答 1. 植物の生活と植物ホルモン 2. 発芽の調節 3. 成長の調節 4. 器官の分化と花芽形成の調節	<ul style="list-style-type: none"> * 植物は、周囲の環境の変化を感知して、自らのからだを適切な時期に適切な時期に適切な状態へと変化させていることを理解する。環境からの情報の伝達には、植物ホルモンがはたらいていることを理解する。 * 植物の種子が、周囲の環境を感知して休眠・発芽するしくみと、その意義を理解する。 * 植物の成長は、光や重力などの要因によって調節されていることを理解する。植物の成長の調節には、植物ホルモンが重要なはたらきをしていることを理解する。 * 植物は、葉、茎、根、花といった器官からなり、これらの器官への分化を通して植物が成長していくことを理解する。植物の器官の分化は、成長の段階や環境の変化に応じて調節されていることを理解する。 			
	7	5. 環境の変化に対する応答 6. 配偶子形成と受精	<ul style="list-style-type: none"> * 植物が、環境要因の変化に応じて、気孔を開閉し、二酸化炭素や水の出入りを調節するしくみを理解する。植物が、病気や食害、生育に不適当な環境で、どのように自身を守っていくのかを理解する。 * 被子植物における配偶子形成と受精の仕組みを理解する。種子の形成や果実の成熟のしくみを理解する。 	期末考査	期末考査	問題集課題 授業ノート
期末考査						
2 学 期	9	第7章 生物群集と生態系 1. 個体群の構造と性質 2. 個体群内の個体間の関係 3. 異なる種の個体群間の関係	<ul style="list-style-type: none"> * 個体群の成長のしかたには個体群密度が影響していることを理解する。生物の生存曲線の型は、その生物の年齢ごとの死亡率によって大別されることを理解する。 * 同種の動物が集まって暮らすことで生じる利益と不利益を理解する。動物の個体群内の個体どうしの間で、どのような関係が見られるか理解する。 * 生態系は異なる生物種からなる個体群の集まりで構成されており、個体群どうしは互いに深く関係していることを理解する。生物群集の中で多様な生物種が共存できるしくみを理解する。 			

	10	4. 生態系の物質生産と物質循環 5. 生態系と人間生活	<ul style="list-style-type: none"> * 上位の栄養段階の生物では、利用できるエネルギー量にかぎりがあることを理解する。生態系における物質の循環とエネルギーの移動について、それぞれの特徴を理解する。 * 生態系や生物多様性の保全の重要性を理解する。人間活動によって生態系に影響を及ぼすしくみを理解する。 * 血液凝固観察実習 	レポート 中間 期末	レポート 中間 期末	レポート 問題集課題 授業ノート 各種演習への取り組み
	中間 考査					
	11	総合演習	<ul style="list-style-type: none"> * 共通テスト対策 * 生物基礎, 生物の総復習, 問題演習 			
	12	総合演習	<ul style="list-style-type: none"> * 共通テスト対策 * 生物基礎, 生物の総復習, 問題演習 			
期末 考査						
3 学 期	1	総合演習	<ul style="list-style-type: none"> * 共通テスト対策 			
	2					
	学年末 考査					
	3					

担当者からのメッセージ(学習方法など)

日々の授業においては、その日の内容を理解できるよう、授業中および家庭で教科書を読もう。図説や問題集を利用しながら、復習をしましょう。考査前には、再度問題集を解き、授業中に行った問題演習の確認をしましょう。実験や実習においては、目的を理解し、取り組み、「考察」を大切にされたレポートを作成し、必ず提出しましょう。